2—717

明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
大正三年六月十五日發行（每月一回十五日發行）

顧問
伯爵 大隈重信
森村市左衛門
會長 島田三郎

廓清

第四卷
第六號

廓清會本部發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清會々告

來る七月四日(土曜)本郷區春木町、中央會堂に於いて、左の順序により第三回總會を兼ね、創立三週年紀念大會を催す。各地會員諸君は奮つて來會せられたし。

(一) 協議會

午後二時、協議會を開き、前年度に於ける本部並びに各支部の事業經過を報告し、本年度に於ける運動發展の方法を協議す。

(二) 懇親會

同五時、懇親會を開き、談笑の裡に晩餐を共にし會員相互の親睦を期す。但本會出席者に限り會費參拾五錢當日御持參の事

(三) 演說會

同六時半、大演說會を開く、出演者氏名左の如し(順序不同)

辯士

森村市左衛門氏(未定)
江原素六氏
島田三郎氏
安部磯雄氏
山室軍平氏

矢島楫子氏
林歌子氏
加藤咄堂氏(未定)
内ヶ崎作三郎氏
益富政助氏

會費の納入

從來會費の納入は、爲替、切手、郵便集金等によりたるが以後はなるべく左の口座により拂込相成度し

振替東京二一七〇七二番

東京市神田區美土代町三ノ三
廓清會本部
電話本局四九四〇番

會員の文書

雜誌及會費に關する書信等は便宜上すべて左の處へ宛てられ度し

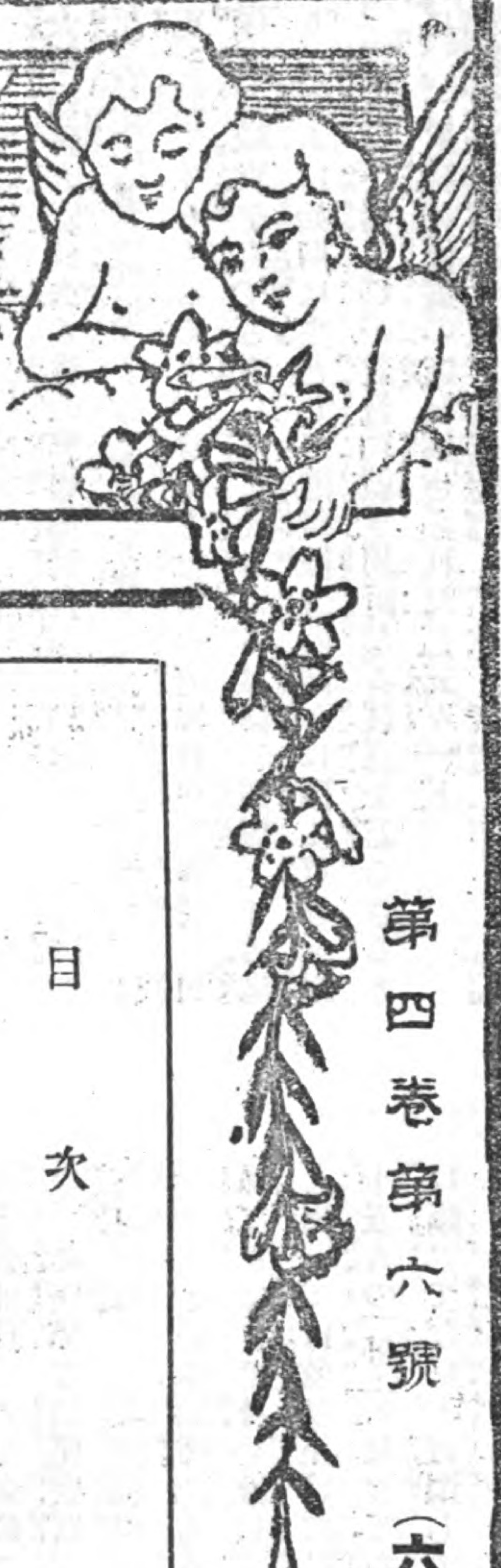
東京市神田區今川小路一ノ三
伊藤秀吉方
廓清編輯所

大正三年六月十四日納本　一部定價金六錢
大正三年六月十五日發行（每月一回十五日發行）

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　神田區三河町一丁目十四番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

THE PURITY

廓清



第四巻第六號（六月）

目次

□廓清時言……………益富球川
□道德論……………大隈伯爵
□大隈内閣と風紀問題……………安部磯雄
□廓清事業と婦人の自覺……………内ケ崎作三郎
□在外醜業婦の取締を論ず……………添田博士
□黴病前の治療……………松浦博士
□法治政策上より公娼廢止建白……大石末吉
□お客改造論……………高島米峰

□「平等的おい」と「階級的おい」境野黄洋
□迷信と風俗……………加藤咄堂
□救はれた女の大膽なる告白……里子
□レコードを破つた廢業……………江南
□雜誌之雜誌
▽宗教界 ▽政治界 ▽思想界
▽學術界 ▽社會 ▽修養
▽家庭 ▽談叢……………諸名家

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

時評

廓清時言

宮內省廓淸問題

詳しき事實を列擧する迄もあらず、渡邊伯の宮相辭職、田中前宮相の大臣待遇拜辭、離宮買上問題、本願寺光瑞伯の法主辭職並に爵位返上等、裏面の複雜醜怪なる全く意表の外に出づと沙汰せらる。皇室の榮光を添ふる爲の天職を有する人々の此有樣は、海軍問題と共に邦家の爲に憂ふべき事にして此場合大隈伯爵及び八代海相、波多野宮相の如き廓淸の爲に適任者を得たるは不幸中の幸と申すべきか、吾人は一日も早く風雨一過して光風霽月を仰ぐの秋に會せん事を望む。

遊廓關係警察官を監視せよ

大隈內務大臣は去る程の警察部長會議に訓示をなして曰く「警察官吏中其品性低くして廉潔を缺ぎ、甚しきに至つては不正を敢てするものあり、身苟も社會の安寧秩序を保持し民衆保護の職責を有する者にして此事あるは誠に遺憾とする處なり、惟ふに如斯は主として道義觀念の薄きに因る可きを以て、諸氏は平素これが監督に就き周匝なる注意を怠らざると共に、一層精神修養の道を講ぜられたし云々」と。

內務省取締規則が明に娼妓廢業の自由を差許しあるにも拘らず、常に其自由を妨げらるゝの事實は頻々として吾人の實驗する所、而して、是は警察官と樓主との醜關係の然らしむる處なりとの非難多し。我等は警察部長諸氏が此內相の訓示を眷々服膺して特に貸座敷業者と、貸座敷管轄警察官との關係を監視せられん事を望む。

大阪朝日新聞曰く

大阪朝日新聞は此頃左の如き記事を揭げたり。

獨逸では先頃から幼兒の賣買が盛んに行はれて警察でも持餘し切てゐる。賣る者は多く貧乏人で之が夫となく新聞紙に子供をやりたいとの廣告を出すと人買を商賣にしてゐる女衒共が夫と知つて之を買取る、賣買されるのは二三歳から十歳前後の者が多數で女兒は勿論男兒とて選ぶ所はない。此殘酷な幼兒賣買を怪しからぬ昭代の珍事と憤つて猛然身を挺して之が救濟の任に當つたのはヘンリ、エッタ、アレントといふ尼僧である、彼は百姓や女賣子や果ては醜業婦などにまで身を扮し、危險を冒して是等無告の窮兒を探し出しては救ひ上げた結果、今日迄に鮮く勿れ一千二百七十五人の「母」となつてゐる。政府で幼兒賣買などいふことは斷じてないと打消してゐた爲初めは警察でも馬鹿にしてゐたが續々尼僧の手から證據が上るので堪らなくなつて到頭此のアレント尼をスツトガルトの警察官に任じて其援助

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

を求むるに至つた之が獨逸で女の警察官を採用した嚆矢だといふ、其後警察の方は辭したが今でも尚警察と連絡を取て熱心に救濟に從事してゐる。日本ではもつと大きくなつた美しい娘を賣つて、腹鼓を打つて居る親が到る處に澤山ある。而して政府はそれを立派に承認して居る。

アレント尼僧の働きに對して我等は滿腔の敬意を拂ふと同時に、朝日記者の最後の一言は正に吾人の云はんと欲する處なり。

海外の日本醜業婦

五月二十五日橫濱着の天洋丸は、又々日本醜業婦を米領布哇より乘せ來り、着港と共に水上署の手に引渡せり。右の婦人は熊本縣人にして布哇にて醜業を營み、米國の官憲に捕へられ、彼の國の刑罰として同地に止まるを許されず逐返されたる者なるが、斯くの如くにして送還せらるゝ者幾人なるを知らずといふ。然るに邦人未だこれが大なる國辱なるを悟らず恬然省るなし。而して婦人矯風會が每議會に提出する海外醜業婦取締の請願は、未だ一回だも採擇せられざるなり、斯くして所謂排日問題を解決せんとす、其難きや當然のみ。

婦人思想の革命（一）

支那の白狼は去日陝西乾州を攻掠し殆んど一物なきに至らしめ、邠州も亦た同運命に逢着したるより、知縣等官紳は、白狼の參謀長に跪拜歎願し、銀三萬元と豚羊一千頭婦女數十名を奉呈すべければ願くば乾邠二州を去り金銀財貨の盛んなる四川の境に入らんことを訴へ、白狼之を諾し二州の兵を引きて直に去りたりといふ。銀若干と豚羊を賄するは是非なし、只之と共に婦女子を呈せしとは開捨てにならぬことにはあらずや、而かも恐らく支那人と日本人は之を日常茶飯事として敢て驚かざるべし、蓋し婦人を金銀財貨と共に之を物品視するは日本と支那と相等しければなり。抑も公娼制度の如きも此の婦女を物品視する思想の産物にして、婦女を物品視するにあらずんば、如何でか彼の人身賣買及び、奴隷狀態を默過するを得んや。吾人の非公娼運動は單なる遊廓撤廢運動にあらず、婦人の人權擁護運動なり。婦人思想革命運動なり。婦人を物品とするものと人間とするものとの戰也。

婦人思想の革命（二）

茅原華山氏は、日本には男子の婦人問題はあれど、女子の婦人問題はなし、男子の婦人問題は婦人問題遊戲なりと、曰はれたり。吾人は平素日本の婦人問題が男子によりてに非ずして婦人自身によりて研究論議解決せらるゝ時機の速に來らん事を希望するものなり。差當り女子教育の如き最も然り、今日の女子教育は概して男子の女子教育にして、女子の女子教育にあらず、我等は是非共女子の女子教育の起らざる可からずと考ふ。此意味に於て吾人は婦人の婦人問題たるべきを主張するものなれども、而かも男子の婦人問題を以て強ち遊戲と見る能はず、否大に男子の婦人問題の必要を痛感す。蓋し前文の如く、男子の婦人觀に革命を起すは今日に於て甚急務なるを知ればなり。（珠川）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

會說

大隈內閣と風紀問題

早稻田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

一　今迄の閣員は資格なかりき

風紀問題の解決に對して現內閣は多大の貢獻を爲すことの出來る眞に都合よき位地に立つて居る。從來の內閣には品性上隨分非難の少なからぬ人々が立つて居たので、公娼廢止問題や醫者取締問題に關して思ひ切つた處置を採るべき考へもなく、亦其資格もなかつたのであるが、現內閣の諸大臣は殆んど此點に於て理想的であるといふことが出來る。吾人は此時に際して內閣が風紀問題の上に一新生面を開かんことを望まざるを得ない。

二　公然國法を破る警察官

吾人は公娼制度に對して常に根本的解決を叫んで居るものであるが、然も今日に於て別段無理なる注文を爲さんとするものではない。吾人の希望は單に政府が現行法を勵行するといふことにある。政府が自ら設けたる法律を自ら犯すといふ位不都合なことはない。然も歷代の內閣は公娼制度に對して常に法律を無視して居たのである。明治の初年に於て女郎屋に代ゆるに貸座敷の名稱を以てしたるは何の爲であるか。明に奴隷制度を廢止して醜業婦の自由を保障する目的であつたことは何人も爭ふことの出來ぬ事實である。現今の娼妓取締規則に於ても明白に娼妓の自由廢業を保障して居るではないか。然も今日までの警察官は常に自由廢業を妨害して樓主の利益を謀つて居る。公然國家の法律を破つて居るものは實に警察官である。若し此不義不正の行爲にして繼續せんか、現內閣も亦歷代內閣と共に人權蹂躙の汚名を負はねばならぬ。現內閣にして現行法律の精神を嚴守せんか、先づ警視總監をして其部下に娼妓の自由を尊重すべきことを傳へしめねばならぬ。斯の如くして警官は娼妓が廢業を屆出づると共に迅速に名簿の削除を行ふことゝならんか、今日の公娼制度は忽にして瓦解することゝなる。內閣にとりては是れ單に一擧手一投足の勞ではないか。公娼制度にあらずんば梅毒の蔓延を防ぐ能はずといふが如きは一の口實に過ぎない。少しく面倒を見れば私娼の身體檢査を行ふことも決して不可能ではないのである。吾人は現內閣が奮發以て奴隸制度の上に一大斧鉞を下さんことを切望せざるを得ない。

三　政府は法律の違犯者也

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

次に陳ぶべきは藝者の取締である。藝妓取締規則の中には藝妓が異樣の服裝をなして街路を通行することを禁じて居る。これ藝妓が公衆の目に觸るゝことを防ぐためではないか。然るに此法律は全く一の空文となつて居る。藝妓は依然として異樣の髮を結び、異樣の服裝をなして街路を横行して居るではないか。甚しきは數百の藝妓群をなして大正博覽會の開場式に臨み、演藝館に於ては所々の藝妓順番に其技を演じつゝあるではないか。吾人は實に政府が一大法律違反者なることを絶叫せざるを得ない。

四 現行法律の勵行を望む

要するに風紀の刷新は年長者が先づ其好模範を示し、上流者が先づこれを實行するに在りと言はねばならぬ。素行の治まらざる内務大臣や文部大臣が如何に風紀刷新を唱へても、其は單に滑稽に過ぎない。今や幸にして謹嚴なる一木氏が文部大臣の椅子を占めて居る。多數の青年の爲に吾人は此の如き文部大臣を得たることを喜ぶものである。併し吾人はこれを以て滿足するものではない。更に進んで吾人は現内閣が速に現行法律の勵行に着手せんことを切望するものである。

廓清事業と婦人の自覺

早稲田大學教授
廓清會理事　内ケ崎作三郎

一 遊廓は花柳病の交換局

廓清運動は、國民的及び世界的運動であつて、個人と社會と其恩惠に浴する事が出來る併し乍ら最も直接に影響を蒙るものは婦人である。されば此運動の先驅者は婦人より出るのが至當である、英國に於けるジョセフイン、バットラー夫人の如き正に其例を示してゐる。

一體公娼、私娼、藝妓、酌婦等の制度は皆男子の我儘を中心として來る制度である。古代及中世記に於て、婦人の位置の高まらざる時は、婦人は單に男子の道具と見做されたのであるが、今日も尙婦人は男子の淫慾を充す道具と見做される傾向がある。殊に公娼私娼の取締は、最もよく此態度を示すものである、何れの國に於ても或は取締と云ひ或は檢梅と云ふも、皆婦人の名譽を犧牲にして男子の我儘を保護する傾向である。切言すれば今日の制度は世界を通じて、男子をしてなるべく不潔なる病氣に罹る患なくして情慾を恣にせしむる事が眼目となつてゐる、即ちなる丈健全なる婦人を犧牲として男子の蹂躪に任せるといふ事になつてゐる。元來花柳病は

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

醜業婦にのみ存在すると限らない、要するに醜業婦は花柳病の交換局の如きものであつて、其眞の原因は男子にあるかも知れぬ。然るに獨り醜業婦にのみ檢梅を行ふて遊客の檢梅を行はざるは不合理も甚しい。故に假りに現行制度を俄に改革する事能はずとせば、吉原、洲崎、新宿等の入口に於て遊客檢梅所を設け、それに應ぜざる者は斷じて入廓を許さぬといふ制度を設くるのも一の方法であらう。元よりそは姑息の手段であつて根本は男子は婦人を尊敬し、婦人は男子を尊敬するといふ宗教、道德の原則を理解せしめなければならないが目下の社會狀態に應ずるには斯かる方法も亦已を得ない。

昨年倫敦に於て開かれたる萬國醫學大會は、花柳病＝梅毒の危險を討論したる結果、次の如き決議案を通過した。

第一　醫師は梅毒患者を發見したる時は衛生當局者へ內密に之を通告すること。

第二　組織的方法に依て梅毒患者に施術若は醫療を加ふ事

二　細君は不名譽なる病の傳染に對して無自覺

梅毒の害の恐しき事は今更數く可き程であつて、家族中に梅毒患者があれば夫婦及び子孫に傳染するといふ迄もなく、時としては全く關係なき人にも傳染する、襯衣、襟飾、ホーク、煙管、海綿、櫛等の媒介によりて傳染する事がある、甚しきは教會の聖晩餐式に用ふる葡萄酒のコップよりも傳染する事がある、其他娼婦より其子に、或は下女下男より、或は病院が媒介所となる事があり、醫師、看護婦が媒となる事もある。花柳病の恐るべき事は斯くの如きものである故に、婦人はよく之れを理解して充分の覺悟を定めなければならぬ。

過日の大阪毎日は某女醫の談話を載せてゐたが、『大阪市に於ける婦人病の七割は細君が皆主人より傳染されたるものである。然るに細君は夫に對して奴隷的態度を取つて一も二もなく斯かる不名譽なる病氣を傳染せしめられて『旦那はん』などゝいふて奴隷的狀態に甘んじてゐる、意氣地のない骨頂ではないか』と某女醫が憤慨して居る。併し之れは大阪のみの現象であるまい、東京に於ける婦人病も、其夫たるものゝ不潔行爲に因ることは疑を容れないのである、斯くても婦人は何等自覺する事なく、自營の道を講ずる要なしとするか。

三　此活問題を奈何

嘗て基督教主義の女學校は、最も進歩せる婦人を輩出せしめたのであるが、現在のミッションスクールは必ずしも然らざるやうな感があつて、時勢の進歩に立遲れしたやうな憾みがある。基督教會の婦人事業の如きも、いつ迄も矢島楫子女史の如き老先輩を勞するに非ざれば事業の進歩を見る事能はざるは誠に遺憾である。又基督教界の牧師、傳道師も現代と沒交涉なる神學論などに沒頭して、斯かる活問題に就て何等明確の意見を發表しないのは怠慢の罪を免るゝ事は出來ぬ。

大隈內閣は從來の內閣中最も廓清運動に同情ある內閣である、故に吾人は此內閣を助けて出來得るだけ永く其勢力を持續せしめて、其間に大に計畫を試みなければならぬ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

論議

大隈伯の道徳論

一　國民道徳の敗頽を憂ふ

抑々道徳の問題は頗る大切なる問題であるが、表面より云へば極めて單純で誰も口にする處である。乍併實行に到れば困難是れより大なるはない、予は今國民道徳といふ概括したる議論に非ずして、國民の公徳に就て一言しやうと思ふ。一體敎育の上に於ても、私徳を說く事は頗る審であるが公徳に關する敎育に於ては、未だ全からざるものがある。近年社會の標準となる官公吏の、犯罪數を增しつゝあるは誠に遺憾と致すのであつて、更に會計檢査院の報告を見るに、會計法違反の數は年々增加の傾向を有してゐる、殊に或一部は多少破廉恥な性質を帶びたものが現はれて來たのである。

此度起つた海軍問題は、殆んど世界を驚かす程の大問題で、世界は日本の道徳を頗る疑つて居る、特に此度の問題は伯林の裁判によつて現はれたものである。而して最も廉恥を尊ぶ軍人の間に起つたといふ事を知るや、國民の憤怒は勃然として起つたのである。是れは一面未だ日本國民の惡を憎む正義の觀念の強い事の證左であるとも云へる。乍併如何せん國民の模範となるべき官公吏の中に、段々破廉恥の行爲が增しつゝあるといふ事も證據立てられたのである。如斯ものが外國から現れぬ中に其罪惡を矯正する事が出來るとよかつたが、外國から現はれて始めて國民は眠りから醒めたいふのは、是れ亦國民の總じて道徳觀念の乏しい事を立證した譯である。

之に先つて支那の紙幣を贋造したといふ問題が起つた、此問題は東京で起つた處の罪惡であるが、やはり香港の裁判によつて現はれ、而して俄に日本が驚いて、始めて警察も裁判も活動し出したのである。更に遡れば先年日糖事件といふ社會を驚かした罪惡はどうして現はれたかといふと、製糖會社の株を外國人が澤山持つて居る、どうかすると外交官なども持つて居る、此罪惡の成立つて居ることを日本人は無邪氣で知らなかつたか、或は知つて之を掩ふて居つたか、外國人が憤つたに始まる、是に於て日本の警察も檢事も活動を起しあの卑劣なる不祥事が暴露されたのである。

二　立憲政治は道徳的政治

予は國家の正義を根本として立つ處の行政警察更に裁判といふものが外から來て餘儀なく動くといふ事は、全體此官公吏の廉恥の風、公徳を重んずるの風が或は乏しくないかと疑はるゝのである。併し乍ら之は決して乏しい譯ではない、或

は社會が複雜になつて來る、法律が複雜になつて來るに拘らず、凡ての人心がそれに應ずる丈の智識が未だ進まない爲に、決して意識的にあらず無意識的に、如斯過に陷つたのであらうと思ふ、之れ予が道德の事を玆に掲ぐる所以である。

有意識無意識に國家が過を未然に防ぐ事が出來ず、罪惡の起つた時に之を制止する事が遲緩であると、それがやがて自ら風をなして來る國家の標準たる人の上に斯の如き過があるといふ事であれば、乃ち過を過とせぬ、所謂風俗の力に及んで或は世人を麻痺するといふことになるのである。元來一私人の罪惡は其及す所の反響は僅に一家族位で範圍が狹いけれども、公人の罪惡は其波及する影響は餘程廣いのである、一私人にありては私德を以て論ずる事も、公人にありては私德を損ふと共に公德を害する、從つて社會に及ぼす反響の大なるだけ公人の行爲を愼まなければならぬ。

身を以て率ゐるといふ事は、道德敎育の根本である、公德の根本である。近年次第に黨爭などが盛んになつて、而して立憲制を說く、憲法を說く、自治制を說くが、其根本を論じて見れば自治制といふものは道德によらなければ成立つものではない、立憲政治は道德的の政治である、何故かといへば自ら獨立して身を治むる、自ら治むる者が集合して地方の自治といふものが成立つたのである、憲法といふものは國家の自治である、身を治むる者が寄合つて始めて自治が成立つのである、さうすると今日の總ての法律の有效に運用さるゝといふ事は公德に歸すると思ふ、若し之れが出來なければ西洋人から白人以外、基督敎以外の民族に憲法は行はれぬものであるといふ傲慢なる誤てる議論が出る、それが今日の有樣では歐羅巴の怪しからぬ批評が或は多少疑を起すといふ樣な譯である、是に於て吾人は自ら反省し努力して此過から免るゝといふ事の必要が痛切に感ぜらるゝのである。

三　公德觀念の涵養

此日本は憲法國である、憲法をして有效に行はう。法治國である、法律をして有效に行はせるといふ事は、吾人が諸君と共に餘程助力せなければならぬ。日本は二度の戰捷に醉ふて少しく惰氣を生じては居ないか、此惰氣を生ずる時に輕薄な淺膚な思想が盛んに行はれて、而して今日の弊が起つたのである。是れ卽ち公德の觀念の低い處から起る事と存ずる。諸君と共に努力するには外に敎訓の必要はない彼の偉大なる先帝の下された所の憲法發布の勅書、憲法發布の時の勅語及び其時に皇祖皇宗に御告げになつた告文、更に敎育勅語、先帝の賜ふた色々の御敎訓を服膺すれば、國民の道德を高むる事も、公德を高むる事も決して難きに非ず、之を以て國民に臨まば國民一般の道德も進むに相違ないと思ふのである。日本人が善を好むの念、惡を憎むの情、正義を貴ぶの心はまだ脈々として吾人の血管に通つてゐる、一度國難に際し身を提げて生命を犧牲とするといふ世界に優れた最高の道德が國民に存在して居る、此優れた道德を發揮すれば優れた政治も行はれ、憲法其他の法律を運用する力を生ずるに相違ない。

在外賤業婦の取締を論ず（二）

前興業銀行總裁　法學博士　添田壽一

六、現行取締法の不備

現行の取締法は則ち旅行の免狀に警察權の監督及び領事取扱方の三つである。卽ち此三つが現行の取締法である、然るに旅行免狀は受けても受けなくても宜い樣なものである、此旅行免狀には何と書いてあるかと申せば、此免狀を所持するものは到る處日本領事の保護を受くるの權ありと書いてある、然るに彼等が出稼をなすに、決して彼等自身が免狀を受けに參ることはない、必ず其親方などが受けに參るのであるから親方から云へば領事の保護を受けては却つて迷惑を感ずるかも知れぬ、のみならず彼の日本の賤業婦女の往く所は多く領事のないところであるから一向旅行免狀は役に立たない又況んや夜に乘じて密航するに於てをやである。而して他の立場より見ればこは却て免狀を與へぬが宜しい、なぜかなれば日本政府が賤業者出稼を公にするやうに見える、我が政府免狀の不信用を增すべければである。次に警察權の監督であるが、これも近來は人間が兎角理窟を並べ立つるやうになつたから法律の基づくべきもののなき以上は、何に依つて其調べを爲すかと云ふことを尋ねられたなれば、其答に窮するだらうと思ふ。最後に領事が斯る者を見付次第本國へ送り歸すと云ふことも其効がなからうと思ふ、何となれば彼等は朝鮮より追拂はるゝときは轉じて香港に行き、香港に於て發見せらるゝときは更に轉じて南洋に航すると云ふ有樣であつて、徒に日本賤業婦女の出稼場所と廣告とを擴むるに過ぎない、故に私は最後の取締法も亦役に立つことはあるまいとするのである。之を要するに日本現今の取締法は決して賴みとするに足らぬ。

七、緊急勅令の發布を望む

然らば將來の方法は如何に致したならば宜いかと申すと、私の考では今年三月頃貴族院に出た婦女保護法律案に今少し修正を加ふれば足ると思ふ。現行取締の不完全なるは旅行の目的を問はぬのである。故に今一層之を嚴重にして旅行をするところの日本婦女は啻に其目的を質すのみならず、其眞僞を檢して不正と認むる者には決して免狀を附與することなく、其免狀を持たないものは決して旅行をすることを許さぬ樣に致したならば、幾分か之を拒ぐことが出來やうかと思ふ。全く出來ぬとしても日本は如斯事は非常に不名譽とし禁遏に力めて居ると云ふ證據にもなり、又惡徒をして省顧せしむるに足るべく、非常の汚名弊毒を拒ぐに於て多少の利益があ

らうかと信ずるのである。此事に就ては既に横濱の「メール」新聞が委しく論じて居つて皆外國人が知つて居るから、私が此處に此事を申すと何となく己の國のアラを云ふ樣に聞こえませうが決してさうではありませぬ。私は斯樣な事は外國人に先に云つて貰ひたくないのである、我家の恥辱は可成我家で治めたいと云ふので申すのである。が今日已に遲蒔である外國の新聞は疾く之を論じて現に「メール」の如きは彼の貴族院に出たる議案の如きは無事に通過するであらう、否、之を通過せしむるのが日本人の免かれ難き義務であると迄に論じて居つた。然るに却つて我が國人が性として頗る無頓着なるは遺憾も亦極まれりである。

私は右申述べた通り啻に將來に於て之を保護するの必要あるのみならず、一日も早く其取締を設定せられたいと云ふ考であるから、私は寧ろ憲法第八條に依つて緊急命令として發布せられんことを希望する。斯く申せば、此事に冷淡なる人々は、左樣に騷ぐには及ばぬではないかと申すかも知れぬが法律にするよりは緊急命令に致した方が私は利益があらうと思ふのである、と云ふのは、今私が此處に於て申すことは私一個人が云ひ過ぎたと云ふ責任を負擔すれば夫で足りる添田は飾り氣がない、向き出しなことを云ふ人なりと評さるゝに止まるが、堂々たる議會の議場に於て假令祕密會議に致すとするにもせよ、如斯不潔な事柄の爲に議論があると云ふことは議會の神聖の爲に惜むのである。故に既に此の事が必要があるならば緊急命令の發布を以てせられんことを希望するのである。それで是非共其將來に於て此問題を何れか其一方に結着せしめなければならぬ必要があらうと思ふ。

八、根本的改良策如何

以上申述べたところにより先づ目下の急に應ずることは略申盡したが、尙他に一の改良を要する事がある、夫は御承知の通り法律と云ふものは元來末のものである、——然し末ではあるが必要なものであつて申さば堤防の如きものである、固より水を堰止むるには堤防が必要ではあるが、若し其水源を治むることを爲さなかつたならば、遂に其堤防が破壞するに至るものである。法律は目下の急に應ずるもので、申さば先に廻つて之を止むるものである、併し乍ら只今申す如く先づ其源流に遡つて之を治めなければ到底之を全治するものではない。私は其根本の改良策を考出して過日婦人教育會で相談を致した。その根本の改良とは何であるかと申すと、其名の示す如く源因に遡つて改良しなければならぬ、或は日本が貧弱にして稼ぎ口が國内にない處から斯く出稼に行くのであると云ふ事を申すが、果してさうであるならば私は實に嘆息に堪へない、人間の勞力で以て働くならば決して糊口に差支へるものではなからうと思ふ故、私はこの議論には疑を容れるのである。若し果して日本の國力衰へて斯る有樣に立至つた者であるならば、愈々此際には民力を休養し地租輕減の如き論も起つて來る譯である。何れにもせよ民力を休養すると云ふ事は之に關せず其必要があるから夫は充分に務めなけ

ればならぬとして精しい事は他日の事にし、只この事のみに付て考ふるに之には必ず然るべき原因がある、其原因は何であるかと申すと輕々に之を看過しては分らぬが、段々領事などに付て聞いて見ると其出稼人が第一其事柄が賤業であると云ふ事を知らざるに因ると云ふ事を聞いた。若しこれが賤業でないと心得此上もなき恥とせぬならば、最早禽獸と異なる事がなからうと思ふ、斯る事柄は云ふまでもなく賤業中の最も甚しきものであるから、苟も日本の前途を憂ふる人々は深く意を此に止めて充分道徳思想を養成して斯る惡習慣を改むる樣に致さなければならぬ。夫で斯る賤業を爲す事を以て恥と思はぬと云ふ原因を絶つには第一先づ道徳の程度を高むるには宗教に依るより他に致方がない、而して其宗教は極めて普通人に入り易く活動力に富で居りさへすれば、神道でも宜い佛教でも宜い、耶蘇教でも宜い、總て有爲活用を主とし眞正に利益があるものであれば何教でもいゝ、其宗教の信仰力に依つて道徳を高むるより仕方がないのである。第二は愚鈍であつて事理を解する事が出來ないところから欺される是は無理ならぬことである、愚な人間を捕へて外國へ往けば綺麗なものが着られるとか、或は甘いものを自由に食べることが出來るとか申すならば、譯の分からぬものなどは外國へ行つたならば、坐して斯る樂しき日を見ることが出來るものであらうと云ふやうな迂濶なる考をして遂に斯く憐むべき有樣に陥るのである、若しも天竺へ往つたからと云ふて決して優曇華などが咲いて居るものでなく、外國とても遊んで食へる事なきを悟つたならば、斯る殘忍酷薄なる水夫などの穽中に陥て耻を異郷に晒すことはなからうと思ふ。夫でこの弊害を拒ぐには智育を授くるより仕方がない、即ち教育を施すと云ふことが必要である。又第三には懶惰であつて働いて食することをせぬ所から斯る賤業に陥るものである。是も憂ふべき弊風であつて兎角日本には遊んで居る人が多くて困る。只自分が働くことをなさず遊んで居て衣食を爲さうと致す處から遂に斯る事に立至るのである。

九、實業教育の必要

之を改良するには只各人に働く所の習慣を付くるより他に善良なる方法はなからう、則ち夫れ相當な職業を教へ込むやうに致すのである。凡て人と云ふ者は働く習慣が付いて居ると暫時も働かずに居られるものではない。故に成可く實業に從事せしむるやうに致すのが緊要であらうと思ふ。私は實業教育は上中流社會就中下等社會に之を普及せしむるの必要があらうと信じてゐる。夫で實業教育即ち手先の業、例へば洗濯、裁縫、編物等の如き、總て婦人に適當したる手先の仕事を教ゆる樣に致さなければ如何に巧に英語を話す事が出來ても何の役にも立たぬ。要するに世人一般殊に婦女子に向つて實業教育を施して働く習慣を付けると云ふことが最も今日の急務なのである。全國人民が働きさへすれば輸出入の超過位は左程意に介するに足らぬ。凡そ勞力は一國富強の根本であるから、働くところの習慣をつければ賤業婦女子の根本も

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

滅盡することが出來る。尚又此事は獨り在外の賤業婦女子を滅盡し得べきのみならず、今日內國に存任するところの賤業婦女子をして穩和の手段に依つて之を撲滅せしむる所の則ち自然消滅を計る所の最良方法であらうと信ずる。或は中には働きたくても藝を知らぬに依つて働く事の出來ないものが多くあるから、夫等の人間に向つて只今申した樣な仕事を敎へたならば下地は好きなり御意はよしと益々都合が善からうと思ふ。斯くの如くにして一方に於ては根元よりして務めて廉耻の心を養ひ、智力を練り、實業を敎へて働く所の習慣を作り、一方に於ては法令を以て背德の所爲を行ふ者を罰し、取締る樣に致し二者相俟つて改良に着手致して參つたならば以上の弊害をして自然に消滅せしむることが出來やう。

十、賤業は移民の進歩を妨ぐる者也

冒頭に掲げた移住論と右申述べたことゝは何等の關係があるかと仰せらるゝ方があるかも知れぬが、今日斯る賤業婦女子の爲に我國の正當なる移住者が亞米利加に於ては將に排斥せられんと致して居る故に、賤業婦女子は移住の進歩を妨ぐるものにあらずして何であるか。故に私はこの問題は今日經濟學者が放棄して置くべき問題でなからうと思ふ。

殊に今日開明の世界に於て奴隸制度より甚しきものゝ存在する以上は力を盡して之を撲滅して仕舞はなければならぬ。經濟學者が唯斯くの如き事を論ずるのは不潔であるとか、或は女の一人二人は如何に成つてもよいじやないかと云つて之を見捨てゝ顧みぬと云ふが如くなるは更に其意を得ざるところである。假令一歩を讓つて經濟學者は所謂經濟（狹く惡しき意の）であるから左樣なことは構はぬと云つて放棄すると致しても、私は同胞に對する義務上濟むべき事でなからうと思ふ。又日本國が開明國の仲間入をせんとする其方針政略上に於ても傍觀に付すべき事ではなからうと思ふ。夫故に此問題は甚だ不潔であるが、併し乍ら私はこの事に付ては我國の人々に於て今少し考を勞して貰ひたいのである。諸君も亦宜しく斯る小天地に跼蹐し國內の事のみに注目する事を爲さず少しく外邦の形勢に目を注がれたならば中々今日、日本が斯る有樣で滿足する事は出來ぬ事を知るであらう。試に思へ、今日誰が斯る賤業を好んで遙々異鄕に行くものあらん、彼等の多數は惡漢の詐術に陷り、戀しき故鄕を去り、我國土を離れて遠く外國に出稼を爲し、云ふに忍びざる恥辱を暴露し聞くに堪へざる虐待を受け、生きては千里離群の客となり、死しては萬世不祀の鬼となる、と云ふ哀れ果なき有樣に陷りて居るではないか、故に私は啻に彼等婦女子の爲に其不幸を訴ふるのみならず、我日本帝國の爲めを思へば、一日も早く斯る惡風を樸滅して其地位を高むることに注意しなければならぬとするのである。由て諸君に此事を訴へ彼の弱きを助くるに勇敢なる眞正の大和魂を振起し倶に共に此憐むべき同胞姉妹を水火の中より救濟し我國前途の爲に盡す所あられんことを偏に希望致す次第である。（完）

羅病前の治療

京大敎授醫學博士　松浦有志太郎氏より

記者曰、今般京都の學生間に、名譽同盟の運動をしやうといふので、博士と交渉したるに、左の手紙に接した。

拜啓、綠樹蔭漸く深く、夏期愛す可きの好期節、賢臺益々御精健爲邦家奉慶賀候。先日は態々御枉駕被下候處、折惡敷不在、甚だ失禮遺憾千萬に存申候。其節御書き記し被下候御高意、當地に於て學生青年を中心として、廓清の爲め運動の事小生も固より衷心熱望する處御同感に相違無之候も、小生の性質才幹は全く舞臺に立ちて活動する役者として、又は樂屋にありて彼是れ周旋する座元としては全く不向にて、徒らに心を勞する事人に十倍して其成績を收むる事は覺束なき事と深く自ら知り慚愧する處に候。此事は故に然るべき適才の人の奮起を望む次第に候。小生は實に廓清運動の熱心なる希望者なる事は、自ら名乘りて欺かざる處なるも其器にあらざるを自白仕候、實行は唯々『愼獨』即一身一己の範圍を容易に出で能はず候。併しながら廓清運動者にして迂生を要する場合あり、其の場合の一事項が小生の能力に適當ならば其時には小生の及ぶ力を盡すを辭せず候。

今般御認めの上御刊行被下候『廢娼問題と性慾問題』實に愚見のある處を漏れなく且つ銳利明確にあらはし被下、小生の自ら言ひ自ら筆したるよりもまさりて小生の意を盡し申候は、小生の深く感謝仕る處に候。願くば可及的之れを全國の青年及び敎育者の一見を得たく希望仕候。若し彼の書き物を見たるが爲に、幸に一人にても花柳病に罹る事を免るゝか、又は亂倫に陷るべき者が救はるゝならば、小生の大なる幸として感謝する處に候。何となれば小生は日々多數の花柳病患者の治療に從事致し居候が、其患者等に接する毎に、なる事ならば此の患者が此病に罹らぬ前に治療してやりたいものであるといふ情を切に起し申候。既に花柳病に罹りたる者を治療する事は、患者に對しても氣の毒であり、いやな感じを起し、又自らも何故に之を斯くなり行かせてから如斯面倒臭き治療に從事せなくてはならぬか、如何にも或方面から見たらば、腑甲斐なき動作ではあるまいかと情なく感ずる次第に候。餘り卑陋なる譬喩にて恐れ入り候得共、俗諺に『放屁後後尻を閉づ』といふ言あり、即ち我々花柳病專門醫は他人の放屁後の肛門閉塞掛といふ役目とも被爲感候。併し此は人を他人と自分とに別ての論にて、若し人間を一體と見れば、一方に於ては勝手に病毒を受けながら一方に於ては此れが治療に浮身を窶すといふ事は、どうしても智慮神經の具備したる生物とは思はれず候。

九州の風紀改善

佐賀縣內務部長　岸本康通氏より

拜啓御手紙拜見仕候處益々御清榮の段大賀此事に奉存候。陳者群馬縣在職中は種々御芳情御禮申上候。（中略）風紀風俗の廓清に付ては、小生の持論な乍不及着々實行致し、多少なりとも社會の改善に資する覺悟に御座候。御承知の通り九州は氣候溫暖人氣柔和にして（勿論剛毅果斷の點あるも）從つて淫風助長の傾きあり、徵兵檢查の成績に因るも良好の方には無之樣存ぜられ候間、一層各方面の注意必要かと存居候（下略）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

寄書

法治政策上より觀たる公娼制度全廢建白書

矯友雜誌社々員　大石末吉（投）

左は余が去月十七日内務大臣に提出したる建白書の要領を拔萃したるものなり。

一　憲法違反と民法の一夫一妻

法治國の法律は絶對的效力を有す、而して我民法第三章婚姻、即ち異性間の結合に對しては一夫一妻制を採用せり、如斯は實に貞操を尊重する道德上の良風善俗として、又異性間の人倫生理に合致する良規定とす。從而各國の法規均しく之を認めて定理とする所以なり、蓋し法律は道德を基礎として制定したるものなれば也。而して行政命令は法治の充實を目的とす、依つて法律規定に副はざる可からざるは勿論也。然るに内務省令明治三十三年第二十一號を以て、貞操の美德を破壞し淫を鬻ぐの娼妓を營業とし、敢て亡國の兆たる酒池肉林の破倫惡俗を公許せり、之れ豈啻に道德に反するのみならず、正に一夫一妻制の法律に背反するものに非ずや。夫れ法治國に於ける法律は絶對的の效力を有するものなり、而して此行政命令の如きは實に法律の範圍的效力に過ぎず、然るに此微弱なる省令を以て絶大なる法律規定に背反する規則を設けたるは、是れ憲法違反に非ずして何ぞや。

我民法は一夫一妻主義を採用せる結果、淫賣婦の如きは當然公秩善俗を壞亂するものたるなり、依て風紀取締上之を所罰するは、蓋し當然の事に屬す。既に淫を鬻ぐを犯罪として所罰する以上、同一行爲をなす娼妓又同一論理に歸一すべきに、他は營業として保護す、豈矛盾の極ならずや。其結果は遂に風紀の頽廢を來し、公娼制度の原因たる隔離主義、病毒豫防、掃溜主義は破壞せられたり。例を東京に求めて立證せんか、吉原、洲崎、品川、新宿、板橋、千住に遊廓を設けて果して掃溜政策を奏效して風紀を廓清し得たるか、否々却つて反對に淺草千束町、日本橋濱町、蠣殼町、軍代、龜戸天神、兩國、芝神明、早稻田鶴卷町、赤坂溜池、本郷根津、澁谷十二社等に魔窟を生じ、警視廳亦如何ともする能はず、遂に淫賣婦處罰の規則に治外法權の如き特別取締規則を施行せしめて見事に公娼政策をして失敗に歸せしめしに非ずや。

二　人身賣買と略取誘拐の罪

若し夫れ公娼制度なかりせば如何、淫賣婦の如き何等の酙酌を要せず、刑罰法規の條項に則つて之れが撲滅を期し、法治國としての名實を全ふする事を得ん。一般婦女に對しては

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

民法に私通を制裁すべく私庶子の規定あり、刑法に堕胎罪あるあり、姦通、重婚の罪又刑法の規定する所、之を以て良風善俗を保全し、何等の支障なくして法理の一貫を完ふする事を得べし。而して公娼廢止と最も歴史的關係を有するものを人身賣買禁止の規定とす、刑法第三十三章『略取誘拐の罪』民法第九十條『公の秩序又は善良の風俗に反する事項を目的とする法律行爲は無效とす』とあり、省令に於て營業を公認せざる以前に於ける娼妓は、實に金錢により賣買收受せられ絶體的に身體及び自由意志の拘束を受けたる奴隷なりき。

而して法律將に成らんとするに先つて、早く既に撤廢の議論あり、然れ共直ちに之を斷行せんか、慣習上の既得權を害するの虞あり、よつて便宜的に内務省令に之を讓り、先づ奴隷を解放すべく、之を營業と認め、本人の自由意志に任じて許可し、而して時期の到來を待つて斷行せんとせしは、蓋し當時政策上萬止むを得ざるに出づ、然るに事質は依然として前借をなし、其抵當として一身を提供し、身體及び自由意志の拘束を受けつゝあり。樓主の暴害なる、彼等の無智に乘じて債務の返還其他身體若くば自由の規則當該官廳の取締命令示達等を蹂躙し、娼妓生活の悲慘なる地獄の責苦も斯やと思ふ程也。偶々自廢を企つる者あらんか却つて樓主より詐欺として告訴され、說諭返還の災厄に遭遇する者比々皆然り。

如斯を奴隸的人身賣買と云はずして又何をか云はん。然れども抗する者は云はん、自由意思なるが故に人身賣買に非すと、形式上夫れ或は然らん。されど何人か自ら好んで醜業に就かんや、彼等の茲に到る原因、一に無學曚昧の悲しさ、惡桂庵の甘言妓樓の誘拐たる債權的陷穽にありて、虛僞と强迫とによりて營業許可の申請をなすものなり。之れ果して完全なる意示表示なるか、否々瑕疵ある意思表示にして所謂民法第九十六條により取消す事を得べき法律行爲とす。而して既に債權の目的、自由身體の拘束にありとせば、之れ公秩善俗に反するものにして、實に民法第九十條により當然無効の行爲に屬す。況んや其原因の誘拐强迫に出づる、刑法第二百二十五條略取誘拐罪たるや勿論也。

三　猥褻姦淫重婚姦通の罪

刑法第二十二章には、猥褻姦淫及び重婚の罪を規定せり、蓋し猥褻とは異性關係の醜風俗を、姦淫とは其淫事、重婚とは配偶者の二重婚姻を、姦通とは有夫の婦人の密通をいふ。而して娼妓は公然輪姦の醜行を敢てす。刑法の規定に徵すれば春畫の如き尙且つ猥褻罪たり、況んや娼妓に於てをや、而も刑法第百七十四條は、公然猥褻の行爲を爲したる者と規定す、是を猥褻罪に非ずとせば果して何をか本罪に問はん。姦淫、重婚又悉く然り、之れ法理の矛盾不條理の甚だしきものにして、苟も法治國にあり得可からざる奇怪至極の營業に非ずや。

而も今日の遊廓は公園の如く公開せられ、老若男女の別なく常に三々五々陸續列をなして見物なしつゝあり、況んや一朝何事か廣告手段の擧行せられんか、群虎長嘯の勢を以て蝟

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

集す。如斯刑罰法規に抵觸し人倫に背反する娼妓を營業として公開するに於ては、果して國民に如何なる感想を惹起せしむるか、如何なる印象を與ふるか、余は敢て叫ばん、如斯は實に人心を極度に刺激して、不自然的破倫を挑發し、延て犯罪を教唆しつゝあるものなりと。視よ新聞紙は日々吾人の言の誣妄に非ざるを證明しつゝあり、曰く強姦、曰く姦通、曰く情死、曰く自殺、曰く殺人、曰く詐欺、曰く横領、曰く強竊盗、曰く依託金費消、曰く拐帶、曰く何、曰く何、數へ來れば殆んど際限なく何れが禍根を遊廓に因せざるものありや思ふて玆に至り誰か其弊の甚大なるに慄然たらざるを得ん。而して離婚數の、醜業婦數の世界に冠絶する、在監人の、私、庶子の産出の、偉數なる、何れか驚愕に値せずとするものぞ。

詐欺とは人を欺罔して財物を騙取し、若くは未成年者の智慮淺薄又は人の神身耗弱に乘じて財物を交附せしめたる犯罪をいふ、之れ刑法第二百四十八條及び第二百四十六條の規定する所なり、而して娼妓は實に人を欺罔して財物を騙取するを目的とし、不當の暴利を事とす、之れ刑法の所謂不法の利益を得るものにして、詐欺取財たるは勿論、又娼妓及貸座敷取締規則の『強ひて遊興を勸め若くば求めざる飲食物を提供し不當の要求をなす可からず』との規定に反す。彼等は之を敢て犯し、又其の脱法行爲の巧妙なる實に恐歎せずんば非ず而も司法警察官は此命令違反、及犯罪を默認し、否寧ろ保護するの觀あり、之れ實に法治國にあり得べからざる奇怪事也今彼等の慣用手段を暴露せむ。

四　犯罪養成所の税金が警察の機密費

娼妓と貸座敷業者とは取締規則を無視し、嫖客に對し巧みに遊興費の不足を生せしめたる後、廓内の破落漢と結託して之を車宿に誘致し暴行脅迫を以て、所持品は勿論着衣に到る迄奪取し、其上遊興費の倍額に相當する金額の抵當として物品を預け入れたる文面の書附を徴收す。之れ實に刑法第二百四十九條『人を恐喝して財物を交附せしめたる者、又は財産上不法の利益を得又は他人をして得せしめたる者は十年以下の懲役に處す』の規定に相當する犯罪たるや明なり、啻に刑法の犯罪たるに止まらず、内務省令貸座敷娼妓取締規則の、遊興費の擔保として物品を受取る時は必ず警察の證明を受くべし。若くは強ひて遊興を勸め求めざる飲食物を提供して、不當の要求をなすとの規定に違反したる行爲たるや明なり。

被害者の多くは、自己の名譽身分を顧み且つ道義に恥ぢて泣寢入る狀態にあり、偶々告訴せんか彼等は民法委任の關係なりと辯疏し、刑法第三十五條の不論罪即ち正當業務によると抗辯し巧みに脱法行爲を恣にす。然れ共之れ理由なきなり、如何となれば、既に債權の原因に詐僞あり、被害者が代理人に此債權を否認する以上、正權限存在せざればなり、然るに暴行脅迫を以て財物を奪取するに於ては特に刑法第二百四十九條の恐喝罪に該當すべきや論なく、況んや取締法違反にして、不頼漢たるに於てをや。然るに司法警察官は、事件の性質上却つて被害者を嘲笑し、炳として火を睹るより昭乎

たる此犯罪に對し彼等は脱法行爲に放任して敢て職權審理を爲さず、甚だしきに至つては却つて被害者に對し、詐欺なりと絶叫し、又は素行調査に口を藉りて名譽身分を毀損すと威嚇し、强て告訴を取下げしむるは吾人の屢々探聞する所とす。故に彼等無賴漢の跳梁跋扈は、百鬼夜行の態をなし、惡辣無比の手段を恣にし、法治の下白晝公然恐喝取財を犯して憚る所なく、隱然無警察の狀あり、否寧ろ却つて彼輩を保護する傾向あるに至つては咄々怪事と謂ふ可し。

如斯結果は公娼を設けたる一原因、獨身者慰藉所に非ずして、寧ろ型の如く金に窮し、例に依つて敢て罪を犯さしむるに至る。吾人の敢て犯罪教唆所となすもの誣言にあらざるを知るべし。況んや此の聖代の一大不祥事たる犯罪養成所より徵收する税金は、内務省令により警察の機密費に處分さるゝに至つては醜怪言語に絶せずや。

更に吾人は論鋒を一轉して國交の對面より之を觀るに、外國觀光團の一度我國に入るや、必ず夫れ山水の美を稱せん國民としての忠魂義膽を稱讚せんも、又共に個人としての日本人の品性を難ず。日本を研究するもの均しく皇統連綿たる我君主帝國に畏敬せん、武國の譽れを賞せんも、共に公娼制度を知るに於て必ず法律ありや否やと竊に眉を顰めしむ、而して賣笑婦の數、犯人の數、花柳病の數の異常に大なるに一驚し、異口同音に、宜なり公娼制度の結果やとなす。而して此野蠻國救はざる可からずとし、公娼制度全廢論の如き第一に外國宣教師によりて唱道せられ、或は本國に應援を求め今猶盛んに運動しつゝあり、之れ果して帝國の名譽とする所なるか。玆に於て吾人は敢て斷定を下さん、曰く公娼制度は法理の矛盾を來し、延て犯罪教唆の疑を免る能はず、國の體面を毀損し國家の道義風教を壞亂せしむる惡制度なり。と

五　政策上の卑見

夫れ風紀の廓淸を期せんと欲せば、先づ須らく公娼制度を全廢して、法理の矛盾不條理を一掃し、以て法律の認めたる良風善俗を保護し、背反する者は刑罰法規に則つて嚴罰すべし。風紀の廓淸を期し得るや炳焉火を睹るよりも明にして、犯罪を減少し警察機密費を節約し得るや必せり、況んや法律の矛盾不條理を除却し名實雙美の法治國たるに於てをや。

若しそれ國民の健康保全にありとせば、宜しく藝妓酌婦は勿論、一般此種の婦女に對して健康診斷を行ひ、適當なる檢梅法を施行すべし、斯くて必然の趨勢は藝妓輩を賤業として疎んずるに至り人心離反して遂に正業に就かん。如斯は一擧兩得にして風紀廓淸上にも至大の效果あるや明けし。

云ふ勿れ警察機密費の缺乏と、前記健康診斷の財源を奈何と。憂ふるを止めよ、酌婦其の他を營業と認め之れに税金を賦課すれば、優に補充して尙ほ且つ餘りあらん。終りに臨んで、伯爵大隈重信閣下に白す。閣下が立憲の大義に則つて大正の日本に理想の政策を敷かんとせるは天下萬民皆克く之を知る。公娼制度が如何に國法に乖離せるかは以上の叙述により て明白なるを信ず。仰ぎ願くば閣下、一大斧鉞を揮つて此惡制の根柢を斷ち給はらん事を。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

講壇

お客改造論

先日和強講堂で「風俗あらため會」の講演があつた本會は越後長岡の野口せい子女史の首唱によりて、高島米峯氏境野黄洋氏加藤咄堂氏宮田脩氏三輪田元道の諸氏の贊助を得て成立した會である事は、既に本誌藝妓問題號に於て高島氏の述べられた處であるから詳叙する事を避くるが、事務所は小石川原町六の高島氏方にある。殆んど本會と同主義の下に立つ會で、吾人は切に其發達を祈り提携して社會人道の爲に貢獻せん事を望むものである、先日の集會は滿堂の盛況で雄辯家揃ひの事とて有益であたのは勿論頗る面白かつた、慾を云へば面白すぎて熱の足らぬ憾みのあつた點である。今左に、高島、境野、加藤三氏の高話を紹介しやう、併しこれは諸氏の校閲を經たのではなく、筆記したるものでもない、編輯間際になつて、僅に記憶を辿つて大要を綴つて見たに過ぎないから誤りがあるかも知れぬ、それ等は一切記者の責任である事を斷つておく。（江南）

高島米峯

或時、或場所に或男が、或車屋を呼んで『おい何處其所迄幾何で行くか』といふ『へい幾何頂きます』『いくらにしろ』『いえ幾何ならお安いんです』『いくらでなけりや止さう』それぢやいくら下さいといふ樣な事で相談一決、曳いて來たのは小石川の指ヶ谷町、とある飯屋の前迄來ると『好し降せ』といふ、客は傲然として約束の賃金を拂ふ、車夫は流るゝ汗を拭きながらぴよこ〳〵幾度か頭を下げた、客は荷物を抱へて何處へか行つてしまつた。車夫は腹掛の丼に貰つた金を抛り込んで車を隅つこに寄せ、上着を取つて膚を拭き乍ら一息ついて、ふと見上ぐると、其處にめしいやがある。お腹はすいてゐる時分ではある、丁度幸ひと、繩暖簾を頭で分けて『おい一杯つけて呉んな』と這入た。すると『へい入つしやいまし』と頭を下げて迎へたのは今の今迄ふん反り返つて『おいつ』とばかり威張つて乘つて居たお客であつた。客はめしいやの主人だつたのだ。

何と不思議な現象ではないか、今が今迄顎をしやくつてゐた者が忽ち揉手をして、ぴよこ〳〵してゐた車夫が俄に樽に跨つて力んでゐる。これがほんとうの主客轉倒であるが、一體これはどういふ譯で威張つたり威張られたり、威張られたり威張つたり同じ人間の間に咄嗟に變つて行くであらう。

畢竟これは封建時代の商を以て四民の最下等を卑しめて來た餘弊である、十錢出して十錢のものを持つて行く、十錢の品物を與へて十錢の金を取る、雙方の利益である、其間何等威張られる理由を見出す事は出來ぬ。これは要するに雙方が自覺しないからである。

そこへ行くと女中は一番禮儀を心得て居る、奥樣だの令孃だのと云つた處で女中君に及ばざる事遠しである。私の店に買物に來るに女中であるならば這入つて來る時必ず腰を屈めて『御免下さい』といふ。斯ういはるゝと『はい入つしやい』と答へざるを得ない。『あの婦人畫報がありましたら、一冊買つて下さいな』といふ。『買つて下さいな』とは何と丁寧ではないか、それが通常の客となると人の家に這入るのに帽子も取らず懷手の儘『おい太陽はあるか』といふ、斯ういはれて見ると『何、生意氣な』といふ氣になるから『おゝあるぞ』と云ひたくなる。けれども平等であらねばならぬからとて『そんな物は無いぞ』とか『あるが買うか』と云つてゐた日には丸で喧嘩であるから之れは是非お客を改造する必要がある。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

平等的おいと階級的おい

境野黄洋

高島君は、『おい此本はいくらだ』と云はれるのが癪に觸るとて大分憤つたが、一體此『おい』は親密の意味を持つて居るものである。『おい熊公どうした』なんどいふ時は親密の意味であつて平等である。それが『おい車やあ』と來ると決して親密の意味ではなくて、階級的おいである。また細君に對して用ふ『おいッ』といふのは間投詞ではなくて代名詞である。而して此『おい』は親密を表はしてゐるものであると共に階級的おいである。細君に對しては『おい』の外に『こら』などゝいふ代名詞もある。平等的、階級的、親密的差別的おいの外に猶ほ威嚇的おいなるものがある、此の場合には『おい』の外に『こら』なる語を接續する場合が多い。『おいこら』と斯ういふ風に專ら巡査などが人民を威嚇する、更にこれに『あゝん』といふものゝ聯結する事が往々にしてゐる、『おいこら、あゝん』と來ると中々凄い。

勞働問題は二十世紀の一大問題であるが、下女下男なるものは階級的おいが全生活を支配して居る、既に下女といふ言葉からして不都合である。下女があるなら中女上女といふ樣なものがなくてはならぬ。元來女に上等の下等のとあるべき筈はない而して下女の事を一名女中といふ。更にまた雇主の事を主人といふのも氣に食はぬ、今日は陛下より外に主人はない、然るに彼等は主人と號し、下女下男を家臣扱ひ、さては牛馬扱ひして居る。元來三十錢働いた者が三十錢貰ふのは、百圓働いた者が百圓受取るのと何の變りもない、金額が少いからとて要求の權利が哀願的にならう筈はない、五十錢働いて十圓貰ふのなら威張られても仕方がないかも知れぬが、下女下男は自分の働き丈の報酬を受取るのであるから平等に自己の權利を主張しなければならぬ。即ち雇主と被雇人とは唯職業の差があるだけで、恩惠は相互が受けて居る。それを屈從に甘んじ奴隷の如き狀態にあるといふのは自覺がなさ過ぎる餘りに古すぎる、併し被雇人ばかり自覺しても、雇主の方で新しくないと歐米の樣に勞働組合と資本家の衝突となる、これ等は皆倫理的に云へば平等の觀念、宗敎道德的に云へば同情がないからである。

同情同情といふ事は對手に自己と同樣の人格を認むる事である、而してこれは啻に人間に限つたことはない、動物にも推及ぼされる、牛に同情するといふ事は牛の人格を認めることである。あの馬は可哀想だといふのは馬の人格を認めたのである。牛の人格だの馬の人格だのいふと可笑しい樣だが、決して牛格馬格猫格鼠格などゝいふ事はない、彼等の苦痛を人間が感ずる通りに痛からう、辛からうと察する＝即ち人間と同樣の人格を認めるから同情になるのである。此理を推して植物にも移す事が出來る、櫻の人格を認め梅の人格、草の人格を認むる、櫻の花を大和魂に擬したのも櫻の人格を認めたのでないか、毅然としてとかいたい〳〵しいげとかいふのも皆さうである、だから釋尊も『萬物皆佛性』ありと云はれたのである、倫理的に云へば平等、宗敎道德的に云へば同情、これやがて佛者の慈悲の根底である。

風俗と迷信

加藤咄堂

人間には生存欲といふものがある。之れによつて人間は生活して行く。それにはまた自己擴張欲といふものがある、何でも自分の勢力範圍のものにしたい、婦人にありては着物に於て最もよく此欲望が表るゝ、いくらでも欲しい、足るといふ事がない、それも始終着るならまだしもであるが唯簞笥の中に藏つてあるのだから妙である。時々出して見て『これが私の所有だな！』と斯う思ふ所に云ふに云はれぬ喜びがあると云ふ。それならば何も態々簞笥の奥に藏つて置かないでも、時々三越や白木に行つて『之れが私のものだな！』と思つたらよさゝうなものだ金さへあれば何時でも自分の所有になる事が出來るに、中々さうは行かないさうである。やはり簞笥の中に入れなくつては承知が出來ない。併し此自己擴張の欲望があるから人間が向上し社會が發達する、正しい自己擴張は文明進化の必須條件であるが、往々にしてこれが迷信に陷る、東京にも『勝の稻荷』といふのが何處かにあつて、これを信心すると勝負事に必ず勝つといふので大變はやる。これは自己擴張の迷信になつたものであるが、今度は自己擴張欲が更に墮落して病的になる場合がある。斯うなると愈々風俗を亂る事になる、それは人のものをたゞ取らうといふ泥棒である。人間には人の物を自分の物にしやうといふ欲望があるから自分のものを取られまいといふ欲望もあるに違ひない、若し此欲望がないならば盜賊といふ者は成立たない、對手に取られても平氣で呉れてやるなら泥棒にはならぬ、それに就て面白い話がある。

○

博多に萬行寺といふ寺がある、住職は七里業人といふ有名な高德、或夜更け本堂に唯一人、老僧は靜に讀經して居つた、そこへ一人の強盜が這つて來た頰冠りに尻端折り、煌々たる拔身を提げて後から「こら坊主ッ金を出せ」と嚴な聲でいふ。七里業人は聞えたか聞えないのか振向きもしない「こらッ坊主！」と今度は怒りを含んで荒々しく怒鳴つた。けれどもやはり何の通じた模樣もない。さらぬも靜かな寺の本堂夜は深沈と更けてほの暗き燈の燃ゆる音が僅にじいゝと聞ゆる、香の煙りが緩やかにたなびいて白髮童顏の老僧は靜に經を讀み耽つてゐる。後には白刄を提げた覆面の強盜が立つてゐる、眞に異樣の光景である賊は苛立つて『こら坊主！聞へないか』と云つては見たがハテ聾なのか知らと小首を傾げた。併し老僧は端坐したまゝびくともしない。賊は氣拔けの氣味で默つて突立つて居た。やゝ暫くして讀經が終つたかして徐に經を閉ぢた七里業人、やをら後向いて、突如『何だ貴樣は！』と怒鳴つた。賊は些か驚いたが『見る通りの泥棒樣だ、あり金悉皆渡して了へ』と白刄を閃かす。『貴樣は人間か』『何に？人間がどうした』『人間なら、人間が人間に話をするに其樣は何だ頰冠りなんぞ取つて了へ』泥棒は奇妙な事をいふ坊主だなと心の中で思ひ乍ら頰冠りを取つた、『さあ之でいゝか、文句を云はずに金を出せ』『貴樣其樣に金が欲しいか』『何云つて居やがるんだい、欲しいから來たんぢやねえか』『諾矣、呉れてやるから持つて行け』と業人は『あの簞笥の三番目の曳出しを開けろ』と云つて鍵を抛り出した。餘り調子が變つてゐるから薄氣味惡く薄氷を踏む思ひで開けて見ろ、如何にも金があつた、先刻から面食つてた賊は我にもあらず躊躇して『貰ツてもようがすか』と振返つた。『いゝから持つて行け』と云はれて、賊は安心したやうに懷に捻ぢ込みさま驅け出さうとすると『待て！』といふ聲がかゝる。慄然と度膽を拔かれて賊は立止まつた。『明日は稅金を納めなければならぬ日だ、其中から稅金何程を置いて行け』、『へい』と賊はそんな事か先づよかつたと金を取出してそこへ並べ『これで宜うがすか』といふ『好矣、歸れ』賊は這麼妙な處に永居は無用と一目散に驅け出すと、また『待て！』といふ力の這入つた聲が賊の胸にぎくと響いた。そらまた來た、ご

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

うせこんな事だらうと思つた、此調子では碌な事はないと内心顫る慄へて逃ぐるにも逃げかねて立すくんだ。『馬鹿奴！　人から物を貰つて禮も云はずに驅出す奴があるか』『へい』『ちやんと挨拶して行け』『へいどうも濟みません、有難うございます』『むう好矣、歸れ』と號令がかゝる、賊はもう無我夢中で逃げ出して了つた。

○

斯くて一月ばかり經つた。警察から呼び出しがあつたので役僧が出頭すると、一月許り前に强盜が這入つた筈だ、被害品は何々であつたかと尋ねられた、役僧は驚いてそんな者は這入つた事はないと答へる。警察では這入つた本人を押へてゐるのだとの事に、寺の者に聞き合せたが確に這入つた模樣はない、再び警察に其旨を答へると、警察でも意外に思ひ、また本人に就て調べて見ると和尙さんから取つたから和尙さんに聞いて吳れといふことで、七里業人を呼び出して、强盜が白刄を以て貴僧を脅して金を取つた筈であるがと聞くと、七里業人『こは怪しからぬ事を承はるもの哉、苟も身は萬行寺の住職、强盜風情に威嚇されて金錢を强奪されるなどゝは以ての外』であるとの答へ、それではと强盜を引出して對決させた。泥棒は『此間の晚、取つて行つたではありませんか』といふ『馬鹿な事を申せ、愚僧は其方などに金を取られた覺えはないわ』との返事、賊は此坊さん愈々妙な人だと思ひ乍ら『いやそれでも確に簞笥の曳出しから金を取出して、其内から稅金を殘して取つて行つたぢやないですか』『何を申す、苟も七里業人　威嚇されて物を取られるやうな人間ではないわ、あれは金が欲しいと申すから吳れてやつたのではないか』『それはさうかも知れませぬが、取たものはやはり取つたもので』『愚者奴、人の物を取つたものが何で禮をいふか。歸る時に貴樣は何といふたか、どうも有り難うございますといふたではないか、して見ると確にお前は泥棒ではない、それが貰つた證據だ』と七里業人の側に感じ入つた警部は、『貴僧が此者を罪に落すまいとのお考へは、御高德さもありませうが、併し此漢は外にも强盜をやつて居るので、折角の御庇護も致方がありません』との言葉に、業人淚をはら／＼と流し、賊の手を取つて『なぜお前はそんな事をして吳れた。お前にさうした罪を犯させたくないばつかりに、欲しいといふものを遣つたらいゝだらうと思つて與へたのであつた。其內から稅金を殘させたのも、翌日になつて稅金がないとどうしても外の者に知らせない譯に行かぬ、唯一人知らせたくないからこそ、態々呼び戾して稅金を殘させた位であつたのに、自分の心づくしも水の泡であつたか』と歎かれたので流石の惡漢も心肝に徹してすつかり改心し、業人の德を慕ひ、遂に出獄後直に萬行寺に到り、業人の弟子にして貰ひ、昔に變る慈悲忍辱の墨染の衣に行ひすまして居るといふ事である。

○

さて人間には一つ種族保存の慾望がある、人間は此慾望によつて男女が婚姻をなして生殖生活を營む、文明も進歩も此種族保存慾といふものがなかつたら忽ち滅亡して了ふ。斯ういふ大切な慾望であるが、これにも亦迷信もあり病的もある。淺草觀音の久米の平內は戀の取持をするといふのでお賽錢が大變なものださうである、其の他平井權八小紫、斯うした類ひの比翼塚は皆戀を叶へるといふのであるが、更に一歩を墮落して病的に陥つて愈々風俗を攪亂してゐるものがある、藝妓、娼妓の類が卽ちそれである。藝娼妓は既に根本の種族保存慾から離れて唯肉慾の快樂を貪るにある。

■會員の運動の爲めに

本會は今般主義宣傳輿論喚起の爲めに左の如きトラクトを出版したり。蓋しこは從來四十頁なりし『廓清』を三十二頁として得たる八頁を以て充當する者なるが故に、會員諸君に限り無代を以て希望に應ずべきに付續々御申越の上、廣く頒布し、主張の徹底を期せられん事を望む。但し百枚に付四錢の割合を以て郵稅御送付を乞ふ。

尙今後も續々出版の豫定に候

◉廢娼運動に就教育家及び婦人諸君に望む　樞密顧問官 文、法學博士 男爵 加藤弘之先生述

◉廢娼問題と性慾問題　京大教授 醫學博士 松浦有志太郎先生述

◉大正博覽會に藝妓出演禁止請願　廓清會編

雜纂

社會の暗黒面を探險漂泊した女の大膽なる告白

里子

春雨は名殘りなく晴れて、紺碧の空高く輝く星の光を仰ぎつゝ、私は過去二年有半の生活を追想するのである。私は明治四十五年の春、煩瑣な都から利根川の清流を去る二合半なる片田舍に、日頃飼ひなれた五羽の鷄と共に歸つた。而して私は近隣の人々からめづらしい種類の鷄を新たに買ひ受けて、丁度三十羽許りになつた、其の鷄の樣々な種類を殖產す可く苦心した結果として、三百二十四羽の多數を得ることが出來た。毎日朝は鷄鳴に驚かされて西が端に曉の星を仰ぐ頃から、日課は初まつて鷄の宿屋の掃除から、其の食料に付て近くの村から村へと脚袢草鞋の出立ちで籠を背負ふて毎日鷄の餌を買ひ求めに行つたのであつた。而して日沒と共に私の可愛い子供等は、お互にコツ〳〵〳〵と云ふ、聲を殘して自分の宿屋へと歸へるのであつた。私は日の終りに於て、病氣の雛を親切に見舞ひ藥と新しい水と食物とを與へて日課を終るのであつた。

殘る時間は自由に與へられた、いつもランプを置いた黑い此家の幾先代から傳へ殘されたかと思はれる古風な机の前に聖書をひもとくのであつた或る夜終日の務めをおはつてから机の友となつた、而してふと●●●●●東京の暗黒面なる小册子を手に取つて、何の氣なしに讀み續けた、而して其の記事には實に恐ろしい、自分の豫想にも及ばない事どもが、書き記してあつたのに驚きました、毎日の新聞紙にて報道する雜報欄のそれにて見、聞いては居たがまさかにとも思ふたのでした。讀み終つてから、暫くの間默想に耽つた、事實この册子の記事にある樣な事が行はれて居るのなれば、誠に傷しい事であると思ふた。今自分は田舍に住んで居るのを幸ひに、田舍娘の東京に對する感想を聞きたいと思ふた、で、毎日鳥の餌や玉子を買ひ求めに行く先々に於て、若き娘達の素朴な美しい而して單純な氣分に接して、其の娘達が心にゑがく都を憧憬する感想を聞いて歩いた。馬糧の爲めに鷄に與へる爲めに、土手に出でゝ青き草を苅る時にも常に若き娘達を友とした、而して其の娘達の思ふ處望む處を聞いた、彼等のいふ處は皆一樣であつた。都の派手やかな生活を樂み、美しい着物をきて、綺麗な髮飾をして、賑かに浮いた樂しい生活をしたいと云ふのであつた。

是等の娘達が唯都に行きさへすれば自分を滿足し得る事が出來るやうに考へ勤ともすれば甘言に惑はされ、惡人の餌食となつて暗い失望の谷に一生を送ると云ふ事は、大利根の岸に咲く白百合のやうな斑點一つない美しい清い正直な娘達としては無理もない事であると思ふ。

○

私は二ケ月ばかりの後に、再び東京の人となつたのである。其の時の私の望みは何うかして社會の暗黒面と云はれて居る處に、奉公して見たいと思ふたので、早速口入業へと出かけて、而して奉公口を探したのである。私はなぜ奉公するのであるかと云ふと、實社會の半面を領して居る、暗黒なる處に全く左樣な罪惡が伏在して居るのであらうかと疑を抱いたからである。私は第一に暗黒面の代表たる三歲の兒童も知る、吉原の廓内の或る料理店へ奉公する事になつた、私はこの處へ奉公する迄は如何に悶たでありませう、又如何に戰慄を覺えたでありませう、併し私は信ずる處があつた爲めに決心いたしました、而して私はこの吉原の廓

内に三ヶ月あまり暮らしました。其の營業ぶりは廓内三業組合に組織されて（貸座敷、引手茶屋、藝妓、料理店など）其の營業に從事する人々は、相互の利益の爲めに俠客肌な氣分が現はれて居ります併し貸座敷に勤めて居る、娼妓なる婦人達は實に悲慘な生活をして居るのである店に坐つて紅粉に粧ひ飾られて居る時は美しく見へるが、其の人々の心情になつて見たら何うであらう、私は不幸にして、と同じ學校に在學して居た然も同級生で、机を並べて共に教へを受けた、其の友の一人が傷ましくも社會と人生との奥底深く、陷れられて其の苛酷な生活にある事を見た。其の時の私の感じは如何許り失望と同情の涙とにやるせなかつたでせう。其の友から其の生活の狀態を詳しく聞いたのである。大正の事物に進化した今日にても、彼の廓の中には重き鐵鎖に繋がれて、生きながら地獄の責苦をなめ、然かも公々然と公衆幾多の男性の犧牲となし、三度の食事すら與へられぬ彼等女性は實に實に悲慘の極である、廓外に出づるに警察署に屆け出で許可を得るにあらざれば一歩も踏み出す能はず、全く籠の鳥である。曾つては神父の愛の御手に、温き惠に浴して居た而して希望に滿ちて居た、私が一友の爲めのみならず、總ての是等不幸の婦人の爲めに、幸福の生涯に到達する事の速かならむ事を祈つて止まぬのであります。

○

私は四ヶ月目に、其の當時非常に世上で評判を取つた、家族風呂で有名な向島の大陽閣溫泉へと奉公先を轉じた。私が其の溫泉へ行つたのは丁度一月の中旬であつた、筑波嵐は遠慮なく隅田川の流れを吹き立てゝ、波間に浮ぶ都鳥のやすむ暇なき迄にもてあそぶのであつた。此時私は二度目の奉公であつた、然しながら此の太陽閣は私に取つては、實に生れて初めての舞臺であつた、それは餘りに規模の大きな會席料理店であつた爲めに、而して今迄の自分の生活とは實に遠きかけ離れのある、放縦な而して不規律な、特種の型のある料理屋女中の新生活に入つたのであつた。吉原は料理店としても極く少さい、皆素人で營業して居た爲めに著しい感じは無かつた。然しながら太陽閣は會席料理であつた、會席一とほりの心得と禮式と而して客に接する妙技と又女中間の交誼に於て、料理人に對する女中の禮法など、また野菜料理の仕込の一斑など、田舍に於て鷄の玉子に其の日を喜び樂しんで、鷄のお醫者さんや鳥屋のおばさんと自ら任んじて居た私には、如何に重く、如何に若勞であつたでせう鼻をつく強き酒の香に、客に接する女中の右往左往する樣に料理を運ぶ男衆の走る樣に、眩暈を覺えるばかり上氣とまた驚異の眼を以て見張つて居たのでした。夜更くれば四方静かに晝の間の忙はしさは何處へか消えて、四五名の女中の行きから外は皆静かであつた。私は晝の間に聞いた事や見た種々な異つた事共が目の前に、繰り返へし寫し出された。かすかに河岸にはいた／＼と寄せくる波の音に都鳥が河聲をもだえては夜もすがら鳴き明かす其の聲に、私は近き過去の吉原に於ける深き印象の懊惱になやまされつゝ、波間に浮ぶ都鳥と共に世の公開の悲慘の巷に付て、幾夜か印象を深くせしめられたでせうか。次第に事物に馴るゝに從つて私の目に映ずる處は、やはり女性の地獄であつた、肉慾の發散地であつたのでした。

○

此の太陽閣へ見える人々は、男女を通

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

じて大抵中流以上の人々であり、又あらゆる職業を行つた人であつた、來客を平均いたしますれば一日五十人乃至四十人の間であつた。其の人々は男は六分、女が四分でありませう。其の中の大部分は花柳界の人でせう、けれども、素人の女も中々少なくは無かつた。私は常に客に對し奇異の眼を以て迎へまた接したのであつた。婦人はさて置き社會に活動する男性は如何に謹嚴な如何に都雅な男子でも、一度花柳の巷に足を歩み入るれば、其の人格も名譽も地位も總て見る事が出來ぬ。而して其の男子は自分の持つて居る總ての弱點を晒げ出して平氣で居るのが、十分の八九迄であつた。而して私の見た多數の人の上に立つ可き位地の方は教育家として政事家としてまた宗教家、實業家、思想家、美術家、藝術家音樂家工業家發明家さては國家の干城たる軍人までが來つて逸樂に流るゝのであつた。また人の姦通を法律の前に照して罪する司法官が自らもまた罪重き姦通を人の目前に犯すに至つては實に寒心に堪へられぬのである。また直接市民に行政警護の任に當る警察官自身が其の取り締る可き先々に於て、紅粉に装へる婦女子を與へられて自己の職責を全ふせず、實に此の間に於ける醜關係は甚だしいものである。實地に社會の裡面の緒を見たのみに過ぎない此の時の私の感情は唯啞然として、日々酒の假面を借りて常に彼等男性が心中に伏在せる獸的欲望の銳鋒を表はし然かも温厚な嚴肅な好紳士に於てすらよく見るに驚いた。此の時に於て私が片田舍に若き娘を友とし足元にかけ寄る小さき翼の雛を友として居た自分の過去を思ひまた日日に於ける荒さんだ硬ばしい情調に、何うして堪へ得るであらうかと思ふた。また、勸めらるゝまゝに三度に一度は心に恐ろしいと戰慄を覺えながらも杯を口にした事もあつたまた寒い川風にふるへながら對岸の家々から洩るゝ燈の光が河の水に美しく流された其の中を悲哀な調子の舟歌をうたひながら棹さす舟も見た。また或る時は何とも云ひ知れぬ悶に靜坐する事も出來ず潮にぬれた冷やかな護岸の苔石にすがつて慟哭した事は幾度あつたでせう。また堪え兼ねた餘りに、一時に平安を求む可く瑠璃色の強き酒を煽つた。然しながら其の結果は非常の苦痛であつた胸は動悸を以て今にも心臟が破れるかと思ふばかりで精神は次第に明かに身の置き場の無き迄に懊惱亦懊惱、人なき靜寂な土手に獨り惡鬼に追ひ廻はされた時もあつた。然しながら夜半夢より醒めた折などはガラス戶越しに強き威嚴ある星の輝く光を仰ぐ時に復活した自分の意識を自覺するのであつた。前に述べた事共はこの太陽閣に來つて六ケ月間は繰り返され繰り返され、極度に苛責されたのであつたが六ケ月目の終りに私は總ての事物に對し冷靜に見聞く事が出來るやうになつて來たのでありました。（つゞく）

最穩健なる進步思想により青年女子の指導に任ず

創刊明治三十七年

一部七錢　一年七十錢

女子青年界

十一卷六號（六月一日發行）

東京市牛込區田町三ノ一二

日本基督敎 女子青年會發行

振替東京二三七二三番

レコードを破つた廢業

——洲崎驅黴院の大論戰——

江南

■洲崎病院へ入院中の娼妓から救世軍に廢業したいから救つて呉れといふ、二人連名の手紙が來た。併し從來此の驅黴院から逃走して廢業したものはあるが、入院中の者を廢業せしむるといふ事は、救世軍も屢々試みていつも失敗して居る。何しろ對手が警視廳の醫院であるから流石の伊藤大尉も手古摺つて居つたが、今度こそ是非共成功したいといふので、記者と二人去月廿七日午後二時といふのに洲崎醫院へ乘込んだ。大門の少し前でよく肥つた一見樓主らしい男が俥で行違つた男は伊藤大尉に對して俥上から丁寧に頭を下げた。これも一種の口密錢の積りだらうと笑ひ乍ら、やがて病院に刺を通じ院長が留守であつたから事務長に面會を求めた。通されたのは應接間、事務長といふのは四十四五の打見た處温良な人物である。來意を告げて、從來娼妓に面會を申込むとどういふものか必ず其前に樓主に告げて樓主が本人を欺し込んだ後でなければ面會させられなかつた。從つて私共面會の目的を達せずして空しく引返すといふ有樣であつた。今度は左樣な奇怪な取扱を繰返されては困るから、院長か貴下にお目にかゝつた次第である。殊に驚く可きは嘗て、德永醫長は技術上の立場から面會を拒まれた事がある、此事件に就ては大に戰ふ積りであつたが、奈何せん當の婦人が行衛不明で其儘となつたが、我々の立場は既に御熟知の事であらうと思ふ。警視廳の醫院としては、吾人と共に提携して法律と人道と正義との爲に充分の便宜を與へられむ事を望みたるに對し、事務長は快く諾して直に其場に二人の娼妓を呼び出した。一人は米住吉樓娼妓大和事小林コト(二七)と云ひ、一人は武藏樓娼妓桃代事土屋クヨ(二四)といふのである。一通り廢業の理由其他を尋ねると入院ばかりして居て借金の返される見込もない、からといふ。事務長は「一人はよく入院する樣だが、お前そんな筈はない」と帳面を取りに行つた。其間に伊藤大尉は救世軍は別に自由廢業の專賣特許がある譯ではない、廢業は彼等の自由なる事を噛んでふくめる樣に言ひ聞かせ、借金と商賣と別物なる事より娼妓稼業の罪惡なる事に及び娼妓が差押へを心配するので、お前の家が火事になつたらお前の親父は、娘を擔ぎ出すか、がらくたを擔ぎ出すかと問ひ、石川五右衛門は釜の中で五郎市を差上げた、それが親子の情である、娘を泥水に投込んで生きながら地獄に陷れる親の不埒を說き、されど差押へは日用品に及ぶ事が出來ないから、恐らく何も差押へるものはなからうと安心させ、それに就て最も注意を要するは、樓主の甘い口車に乘せられて自廢を思ひ止まる事であると、充分飮み込ませた。

談話の途中で事務長は帳面を持つて這入て來て「そらお前の方はそんなに入院して居ないぢやないか、之が證據だよ」と暗に廢業を成立たせまいとする氣勢が見えたので、記者は「目下入院患者の何名位ありますか」といふ樣な質問を連發して、會話を二つに割き、隣りに腰を下して話してゐる大尉の談話が事務長の耳に這入らぬ樣にした。策戰は巧に奏效した、大尉は充分得心せしめて、愈々樓主側と本人達と會見さする事にした。事務長は二人を連れて出て行つた。丁度三時である「事務長は案外溫良しい樣だ、此分ならうまく行く」と二人は顏見合せて莞爾した。十分二十分三十分別室に於ける樓主との談判を我々はとう／＼一時間待つ、「話が手間取れるのは女が頑張るからだ」と伊藤大尉は樂觀してゐた、時々窓硝子の處に娼妓達が飛び上つて我々を覗く、院内二百四名の入院患者が上を下へと騷いてゐる。時計は四時を報じた、事務長に催促するともう少し待つて呉れと歸り仕度でやつて來た、どうせ退院問題で一衝突は免れないと見て逃げるのだ、當直だから明日にしてと逃げを打たれる此邊の關係があるので、是非今女達を玆に呼んで呉れと請求する、事務長が出て間もなく、三業組合の利け者度會應輔と、平野幸三郎とが這入つて來た『いつも定連』と笑ひ乍ら一揖して座に着く。『いやどうも恐しい頑固な奴で手が着けられぬ』と平野がいふと、渡會が「伊藤君に會つてゐるんだもの』『僕も餘り不思議だと思つた、大概の奴は彼處邊で參るに定まつてゐるんだが、今度の奴は二人が二人共何の利目もない、妙だと思つたらちやんと注射が利いてゐるんだ』と笑ふ伊藤大尉が例の通り吃りながら『いや一寸いと、ちよいと』『なに其のちよいとが大變だ、君の顏を遠眼で見た丈でもう最後さ』『全くだ、伊藤君を神樣だと思つてゐるかられ』『併し米住吉なんぞ全く可愛想だよ』『火の車だかられ、餘り酷めないで呉れ給へ』『併しどうせ斯うなつたら聞く伊藤君ぢやないから諦めさせたが、一番やり切れないのは、あとから五圓なり十圓なりの入院料を拂はせられるのさ』『全くだ、三百圓の玉が逃げるのは仕方がないとしても、泥棒に追錢だもの』四人は思はず笑つた。如何にも彼等にしては左樣であらう。渡會は二人の樓主に

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

諦めさせるべく出て行つたが、間もなく米住吉の樓主と二人の娼妓を伴れて這入つて來た。樓主は泣き出したい樣な憫れつぽい顏をしてゐる「伊藤さん全くやり切れません、これなんかやつと二月しか稼いて呉れないんですからね」とこぼす「まあ」二人がなだめては二人の娼妓を先に警察にやつて、後から我等は出る事にした。渡會も平野樓もよく語る、三十分ばかり後れて平野樓と我等二人が連れ立つて病院を出た、玄關には彼方の窓、此方の扉と黑山の樣に娼妓が見送る、看護婦が廊下に出てはいけないと制してゐる。三人は廊の中を平野樓に廢業を勸め乍ら歩く「伊藤君に度々聞かされるのでよく分つて居る。實は廢業の準備中だ」と云つて別れた。二人はやがて警察に行つて見るとまだ來て居ない、不思議千萬三十分も前に出たものが來ない筈はない、これは一杯食はされた哩と、二人の眉はきりゝとなつた。「そんな惡辣な事をやるなら眼に物を見せてやる」と大尉は唇を嚙んだ、二人は引返して大門の交番で聞くとまだ出ないといふ、先づ安心。若し休業屆けでもして何處かへ潛伏させられてはおしまいである、廓內に居りさへすれば占めたものだ、記者は大門前に見張りをして。大尉は武藏樓と米住吉樓に行つたが、病院から歸らぬといふ、二人は取つて歸した。もう五時を過ぎてゐる、電氣がついて湯上りの娼妓達が化粧最中である、彼方からも此方からも延び上つて見る、伊藤大尉は全く彼等の救ひの神樣である。病院に引返した我等の顏には堅い決心の影があつた一人二人の娼妓が又我等の姿を見出して、一波起つて萬波生じ、入院患者は又廊下の彼方に黑山となつた。病院には馬場といふ五十許りの當直事務員が一人居つた、記者は其面構へを見た刹那此野郞の差金だなと直覺した。二人はまだ居るといふ、大尉も記者も嚇とした。馬場は拔からぬ顏で「病院の規則で有毒患者を外出させる譯には行きません」と見事拒ねつけた積りでにやりと笑ふ彼の眼は利慾に燃えてゐる。人情も正義も、黃金の前には芥の樣な其顏!、伊藤大尉が巧妙な外交で、折角圓滿に運んだものを、此一醜漢のために欺かれて二人は警察に行つたりしたのだ。伊藤大尉は盛んに吃り出した、併し突々として腸を抉ぐる樣な旨い事をいふ「君は省令と病院規定を知つてゐますか」とこちらから逆捻ぢを食はす。論戰は愈々激しく、三人の聲は次第に高くなつた「廢業のため退院して行うといふのに、それをも拒む事が出來るか、有毒患者でも三業の方から休業屆を出せばすぐに退院させるぢやないか」と突込む「強ち拒む譯ではないが、先日廢業のため退院させた處、廢業が許可にならなかつた、然るに彼は既に退院してゐる、夜ではあるし有毒患者の行く處がないといふので困つた事がある、其時警察で協定してさういふ場合には代人が出頭して、警察から本人を召喚して貰つて始めて外出させるやうにする事になつた」だから貴方も左樣なすつてはどうですといふ併し其手は喰はぬ、警察では出頭の出來ぬ病人を召喚する譯に行かぬと取上げない例がある「よろしい自由廢業の目的を以て警察官署に出頭しやうといふ者に對して、君が妨害をするならそれでよろしい、君は內務省令に違犯するものだ」「そんな事はありません妨害する譯ではないですが、兎に角それぢや私は當直ですから明日迄待つて下さい」いや不可い、其手で以て夜中に本人を退院さして隱した事もあるではないか」「それは私は知らぬ」「知らなければ知らぬでいゝ、要するに君は外出を拒むのだな、それでは本人が入院して居るといふ證明書と、警察へ出頭廢業の目的を以て退院外出を求むる者に對し、これを拒むといふ事も茲に僕が書くから、相違ないといふ君の印を捺して貰ひたい我等はそれを以て我々の取るべき道がある」といふて記者は鉛筆を出して書き始める。流石の馬場も遂に往生して、それぢや院長に伺つて見るとて電話をかけて、院長が退院を認めたので仕方なしに二人の女を出した。我々は勝ち誇つて病院を出る娼妓連中は押すな〳〵前が高いといふ騷ぎである、廓內を歩いてゐると其處此處から知合の娼妓が聲をかける。警察に行つたのは七時。警察の取扱は極めてよかつた。前川警部の如きは歸るのに態々記者等に挨拶して行つた。受付けたのは吉田警部補型の如く樓主側を呼び出して、別室で各別に聞取書を作る、取扱方が娼妓に同情して樓主側を叱りつけて居た、娼妓にも再び斯かる惡業に從事しないやうに懇々言ひ聞かせたとの事、左もあるべき事で、記者迄嬉しかつた。米住吉の樓主は氣の毒な程溫良しかつたが、武藏樓の方は女將が代理として出て來た、一人の破落漢らしい男を連れて來て二人で頻りに惡口をついた。女將は見るから明烏の鴇母のやうな惡婆で、黑い肌を乳の邊りまではたけ、生血でも吸ひさうな女、廢業するといふので病院で二三度引叩いて、着て居た着物を引剝いで洗ひ晒しの浴衣一枚着せたといふ女。警察の取扱としては時間の永くかゝつたのが遺憾であつた。愈々削除になつたのが九時、女將と破落漢の罵りを浴びて、警察の門前で右と左に分るゝ時記者は萬歲！と叫び度かつた。二人は死ぬ覺悟で朝から食物が咽喉に這入らなかつたといふ、左もあらん。歸途、大尉は態々先頃廢業せしめて、今二階を借りて夫婦共稼ぎをしてゐる何某といふ家に立寄つて、記者に見せた。二階からトン〳〵と下りて來た丸髷姿を見た時記者は泣される程嬉しかつた。二人の女の爲めにはいゝ活教訓である。救はれたる女よ幸あれ。

雜誌の雜誌

○宗教

神の懐に入つた生涯　渡瀨常吉

神の懐に進み入りつゝ顧みれば其辿りたる神が辿るべく示し給ひし神意であつたので、現に辿りつゝある時には自分の心のまゝの如くに思へど、一歩過ぎて考ふると上よりの啓示に外ならなかつたことが分る。隨つて將來辿り行かんとする道も神の大御意の外はない。此の時が即ち神と共に在るの時で、基督を始め使徒達が、中に顧みて強烈至大の力を自覺し、神と共に働くの精神が坌湧した境が斯る過程の剎那であつた樣に思はれる。而も此れが其の本質と爲つた所が、永遠の生命で、パウロが吾人にも書き示して居る處である吾人が企圖した如何なることであつてもそが少くとも成功したことは、凡て私の分子即ち利己的要素が消えて神の聖旨即ち何人にも首肯され、殊に人の良心に質して義とせらるゝことであつたことを考ふる時は、單に成功と云ふ樣な淺薄な事相から觀察しても、神意に合するの外には、天下成功の道はないのである。それで若し此の意味に於て少しでも成功の實驗があれば、其の人は一歩一歩至醇至純な神の懐に引き入れらるゝ外はないので、愈々此の意味に於て大を爲すに至るであらう。主基督が「凡そ我が名に託りて父に求むる所のもの、父これを爾曹に授け給ふべし」と宣ひしもの、蓋し此の消息ではあるまいか、神意に隨つて神意を爲すの外に、確實に成功すべき道のありやうはない。（基督教世界）

宗教の世間化と教育　文學博士　井上哲次郎

一體宗教と云ふものは古今を通觀すると次第に世間化するの傾向がある、世間化せざれば効用を全うすることが出來ぬ。然し世間化は宗教に於ける一つの傾向であつて、總ての傾向ではない、其外にも色々あるが、先づ一つの主もなる傾向である。ルーテルの革新は矢張り基督教の世間化である。舊教の方では僧侶が宗教をモノモライズしてバイブルも世間一般に讀ませぬと云ふ風であつた。そこでルーテルがバイブルを獨逸語に飜譯して、誰でも讀むことが出來るやうにした詰り國民をして基督教に接近せしめたので、即ち世間化せしめたのである。それから以後バイブルは何處の國語にも譯されて。今では已に四百有餘の言語に飜譯せられて居る。佛教でも同じ事であつて、世間化すればする程効用が多くなつたのである。僧侶と云ふものは餘程世間と隔つたもののやうに考へる者もあるがそれではいかぬ。親鸞の如きは實に大改革を施したもので僧侶に肉食妻帶をして、世俗の中に入ることを許した斯くの如くして世間化せしめて來たのであるが、今日では更らに一層宗教が世間化しなければ到底も間に合はぬ事になつて來たのである。殊に日本に於ては、今日宗教と云ふものが教育とは無關係になつて居るといふのは、いろ／＼な事情もあるが要するに今迄の宗教では其儘に教育に入れる事が出來ぬからである。若し宗教と云ふものが全で無用のものであるならば、固より之を段々退けて了つても構はぬが。若し何か宗教に採り所があるならば、日々兒童を敎る教育の中に入るやうでなければ活用はなし得られない。今迄の通りの宗教では教育の中に入れる事が六つかしいが、ごうしても宗教の中には、教育の中に入れて行きたいものがある、それは廣い意味の宗教的情操である。（中央公論）

○政治界

三派合同問題と予の理想　犬養毅

予は非政友三派の合同には絕對に反對である。彼等合同論者は、既に前記議會に於て、三派が聯合して山本内閣に當たから其の聯合の勢を繼續し、更に一歩を進めて合同するのは自然の順序だと云ふて居るらしいが我黨は從來飽く迄も獨立獨步でやつて來たので我れから進んで他と聯合した覺えはない、即ち内閣不信任の決議案でも上奏案でも、我黨の爲す處に他の黨が追從して來た迄である。

或る政治家の如く、議政壇上に公々然と海軍擴張の不必要を絕叫しながら、その舌根の未だ乾かざるに、

即ちその說を飜つて、海軍擴張を是認する內閣に列して、平然たる如きは、政治道德上決して許すべからざることであつて、責任ある政治家の斷じて爲すべからざることであると思ふ。

且又同志會の中には、從來國民黨の極力排斥したる處の、長閥の臭味が頗る多くして、到底吾人と相容れざるのみならず、又その思想に於て憲法政治と相容れず、議院政治に關して根柢より說を異にする處の、舊中央俱樂部系の者もあれば、更に國民黨脫走組の如き思想及感情の相容れざるのみならず、選擧區の領域に於ても互に衝突する處の分子が居る。而して之に中正會の一人一黨主義の人々を加ふるのであるから、假令三派の合同が出來ても、その內容分子が如何にも雜駁粗漏であつて到底渾然融合せる政治的團體に發達すべき見込がないのである。予の政國合同論に對しては隨分誤解もあるやうであるが、要するに我國の政黨を通じて、憲政に對する希望と信念とを以て奮鬪を續け眞に政黨政治に關する訓練を經來りたるものは、自由改進兩系統以外に求むること能はざるを以て、將來或る機會に於て、政友國民兩黨を解散し、兩系統に屬するものを合して、一團とするならば、初めて我が政界の中心勢力となるべき、健全なる政黨を實現し得るだらうと信じて居るのである。予は斯くの如き時機の早晚來るべきを信じ、その機運を促進する爲めに微力を盡す積りで居る。(太陽)

政國合同は喜劇

尾崎行雄

かの犬養君は一種の理想論として、現在の政友會及び國民黨中より所謂健全分子なるものを糾合し、眞に鞏固なる新政黨を組織するが多年の宿願であると唱へ、政友會も亦各派の團體で政國合同の決議を發表して居る。

併し私から申せば、政國合同は政界に於ける一種の喜劇に過ぎぬ。到底實現する事の出來ない計畫である。勿論、政友會が政國合同の決議を表示するのは政略で、かの非政友三派合同の計畫を妨げやうとする手段なるは、少しく政界の消息を解するものゝ疑はぬ處である。若し政友會內に政略でなく眞面目に政國合同の決議をなし、その實行を熱心に期待する人々があるならば、私は彼等の政治に對する知識の淺薄を嗤笑するであらう何故なれば彼等は現在の政友會及び國民黨の成立した歷史と感情とを無視したものである。政黨成立の歷史と感情とを考慮する處なく政國合同を說くなどは實に迂愚の極で俱に政治を語り時事を談ずる資格なきものと云はねばならぬ。殊に自由黨及び改進黨に屬する地方黨員間の感情と云ふものは、決して中央に於けるが如き單純なるものでなく、殆んど兩黨々員の仇敵の如く、何事にも、如何なる問題にも相對時して讓る處なく、非常に軋轢して居る。假りに政國合同が成立しても、歷史と感情との相違に加ふるに、主義政見の合致しないものがある。こゝに於いて合同前に國民黨には土崩瓦解の時が來るかも知れぬ。その僅少なる國民黨の殘黨(?)を迎て、政友會が新政黨の組織に着手するの雅量を示すであらうか。その想像にすら私は堪へぬものである。

更に政國合同には大なる障礙がある。民黨聯合軍最後の上奏案に至つては、畏くも天聽に山本內閣の不信を訴へ奉らんとしたものである。その上奏案の提出署名者の一人である處の國民黨が、今日、曩に敵黨として、その失政を彈劾し、聖慮を煩はし奉つた政友會と提携、否な合同するならば、聖上に對し奉り實に畏多いことになりはしないか。

○思想界

メエテルリンク論

吉田絃二郎

メエテルリンクは過去、現在、未來を通じて神秘的の世界を有して居た。過去を現在に引つけ其力を以て未來の世界に翔けるといふが彼の思想の根本であつた。其れと共に未來の世界を現在へ移して來るといふ傾向も彼にはあつた。

「過去は現在である」さう彼は言ふて居る。いつの時代にも過去は空しく死なゝい、過去は現在に生きて居るのだ、我々が本當に現在の眞理を攫まうとするには過去を能く知らなければ駄目である。過去は我々が破壞もし、修繕もし、創造もすることが出來るものだ。

我々は、現在に於て眞に過去を實現することが出來る。過去は現在の材料で、現在は過去の實際的反動だ我々が現在を進歩さすれば、過去も亦た進歩して來る

然らば未來はどうか、此點に於てメエテルリンクの思想はワイルドのと大分違ふて來る。ワイルドは總べての事を現在の刹那に結びつけ、過去も未來も其爲にのみ意義を認めるが、メエテルリンクは其れのみではない。彼はともすると未來そのものを重んぜんとする傾向がある。彼は言ふて居る。「生命の光は此の世界では僅かに一部分を攫み得るに過ぎない　死れば其處に光彩赫耀たる實在界がある。其世界に入つて何等の束縛をも受けず、自由に其の實在を摸索するのは、人間に取つて最も光輝ある冒險だ」と。彼は暗黑な、狹隘な現在の世界に於ては人間は悲しい時間から悲しい時間を過して、眞の我を發展させることが出來ない、死んで光明の世界に來て初めて眞正の我を發見

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

することが出來るのだと考へた。其の思想は佛教の思想と著るしく相通じた所がある。さうして其處に彼の現實を厭うた心が明白に現はれて居る。

しかし彼は必ずしも現在の經驗を輕んじた人ではない、彼はかく未來に重きを置く一面に現實にも強いあこがれを持つて居る。彼はエマーソンの言葉を借りて現實の世界に超越的自我を見出すことの必要を説いて居る。彼は未來に求めつゝある所のものを轉じて現在の世界に求めやうとした。彼は人間の死を以て大なる冒險――實在をつかむ冒險――であるとしたが、更に之を卑近の所に轉じて來て「死のみではない、生存も亦た冒險だ、現在の瞬間々々が一大冒險である」と言つた。彼は現在の刹那に永遠の自我を發見し、そこに新らしい生命を見出さうとしたのであつた。其の根本に於てはワイルドが刹那々々に美を求めて行つたのと異ならない。（獨立評論）

女性主義に就て

日向きむ子

米國のブライアンは銀價本位論と云ふ筒井づゝの戀の爲にいつも中原の鹿を逸する、あなたも女性主義に心中立をしてゐるうちは到底徹底する事は出來ない、新らしい者にはなられない。そんな衣裳はかなぐり捨てゝ赤裸々にならなくては間にあはない、最早そんな世の中ぢやないのですよと或友は顔を見せないで聲だけで私に云ひ聞かせた『私は新らしくなりたいと別にいひやしません、女性主義とは衣裳ではないのです全然裸體の丁度大理石の彫刻の女の頸や肩や腕や腰のあたりにみる細い柔かな線の樣なものなのですよ』と私は物怖ぢする子の樣に小さな聲で答へた。而して又赤裸々になつた姿が醜いと信じてゐる位なら女性主義なんていはないで「そんな事は私たちがふろくからみんな百も知つてゐるたゞ損をしてまで口に出さないばかりですよ」と冷笑してゐる婦人たちの中に入つて居りますと、獨語した。

女性！女性！何といふ優しい響であらう、何といふ姿のよい字であらう、誰が何といつても私の女性に對する嘆美と信愛の念は動かない、女性主義は不權識な主義ではない。男に媚びる主義ではない。西洋劇の姫君のある優美な態度の樣に感じのよいしかも花園の蜜蜂の樣に活動的な生産的な極自然な主義である。（新眞婦人）

○學術界

島國民性の研究

理學博士 遠藤吉三郎

我等の愛する日本帝國は、何萬年か何十萬年か前には、南の方朝鮮と地續きで、北の方西伯利亞に續いてあつたなど云はれるけれども、夫れは地質學者や動物學者の議論であつて、昔々の大昔から、四面海で圍まれる島國である。世には島國を以て八方塞がりの小天地と目し、其の住民をば籠の中の小鳥に較べ、落付きのないコセ〳〵した窮屈な人民だと思ふて居るものがある、夫れで島國根性と云ふ言葉さへ作られてある。併し段々と島國民の研究をして見ると、非常に小さな島ならばイザ知らず、人が何百萬と住める位の島ならば、其國民は決してコセ〳〵して居らぬ、却て窮屈な事は非常に嫌ひな事が解かる。歐羅巴で島國と云へば英吉利であるが、其國民性を研究して見ると他の歐羅巴諸國に比して、遙かに我等日本人と似た點がある。之れは全く兩方共に島國であるのが一大原因である。瑞典と那威とを合したスカンヂナビヤは、北極圏内では大陸と接續して居るが、此地頸で大陸と交通せぬから、事實獨立したる島國である。今日でこそは、瑞典も諾威も北歐の小國として至て勢力がないけれども、昔の歷史を稽へ、且つ現時の國民と親しく接して見ると、英國に次で我が日本に似た處がある。伊太利は北方で大陸と接續し居り、一寸スカヂンナビに似た樣だけれども、此接續地點が古來の歷史に重要なる舞臺であつたから、其國民性は餘程大陸的なところがある、夫れでも之れを獨逸や墺地利などに較ぶれば、遙かに島國的である、殊に南伊太利に於て爾りだ。

ソレなら島國の國民性とは何かと問はれるであらうが、我輩は國民が融通性の具備して居る事を意味する。島國民が何故に融通自在な國民性を備へて居るかと云に、事實に於て國境を持たぬと云ふ事が大なる原因をなして居る。行き度い處へでも行く事が出來る。彼等の道路は水で出來て居る。大陸國の人民は左樣は參らぬ、東へ行けばお隣りへお辭儀一つしなければ通れぬ、西へ行けば終ひ此間だ喧嘩した奴の屋敷に衝き當る、如何しても窮屈ならざるを得ない、之れが國民性に影響する事夥しい、玆に於てか大陸國民は籠の鳥で、島國民は野生の鳥である。（新日本）

○婦人運動

英皇后と婦人運動

羅馬の萬國婦人大會に於ては、英國メリー皇后が英國部會の後援者たるを承諾し給ひたりとの件發表せられたり。是皇后が婦人參政權要求運動に同意し給ひたる觀を呈するものなり、由來皇后は激烈

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

なる婦人參政權反對論者たりしを以て、形勢少しく異常なり。

婦人政客の大騷擾

去る五月廿一日の午後、英國婦人參政權運動者等がバッキンガム宮殿外に演出した騷擾は驚くべき物であつた、當日の婦人參政權運動者の意思は直接に皇帝に逢つて選擧權獲得を請願せんが爲めであつた此日パンカースト夫人は約二百名の參政權運動者を率ゐて午後四時少し前グロスヴエナーガーヅンからグリーンパークに沿ふて進擊しコンスチチユーションヒル通りの入口に警官隊の最初の警戒線が張つてあつた。當日宮殿の內外に配備せられた巡査は約一千名であつた。パンカースト夫人は黑の服裝に、白い羽根をつけた黑い帽子を被り、隊の先頭の中央に立ち、蒼褪めた顏に決心の色を示して、午後四時先づ警戒線に突擊した。直ちに悲しい爭鬪が起つた。婦人政客等は豫て用意した體操用の棍棒を振ひ、或は錫の薄葉又は卵の中に用意した眼つぶしを投げ、騎馬巡査を馬から引きおろし、出來る限りの奮鬪を續けた。勿論巡査も之に努へ、拳を揮ひ、棍棒を振つて擊退に努めた、ピンは飛び、衣服は裂け、釦はちぎれて、警戒線附近は驚くべき大混亂の狀態を呈した。パンカースト夫人を中心とする數名の婦人は遂に第一の警戒線を突破した。夫人は多數の警官と爭ひつゝ、第二の警戒線に向つて突進した。併し此の警戒線より二三十碼の點に於て、夫人は巨人漢巡査の爲に輕々と抱き上られて了た。夫人を護衞してゐた左右の婦人運動者は棍棒を揮つて之を妨げたが、此等の婦人も遂に捕縛せらるゝに至つた、パンカースト夫人は抱あげられた時「宮殿の前で捕縛されたのだ！皇帝にさう言へ！」と絕叫した。此の騷擾に於て捕縛せられた者は、夫人の外に五十六名であつた、其中に三名の男子があつた、婦人政客は力が盡きて敗れた或者は負傷し、或者は昏倒し、捕縛せられた者は髮は亂れ、衣服は裂け甚だしく疲勞してゐた。パンカースト夫人は直ちに其所からタキシに乘せられ、撒水車に道を開かせて警察署に連れて行かれた、他の五六十名は翌朝バウストリートの違警罪裁判所へ護送された。（萬朝報）

◉飲酒と國家!!!

飲酒の爲に過去十一年間に蒙りたる我國家の損害金高

四十二億四千二百九十三萬五千百七十八圓也 禁酒會調査

さけきらいになる藥

定價 一週分 一圓、二週分 一圓九十錢、三週分 二圓八十錢

たばこきらいになる藥

定價 壹瓶 金五拾錢 送料 八錢

どんな酒、煙草のみでも身體に少しも害なくきらいになり益々壯健になる事保證

●郵券貳錢送附あれ 説明書及禁酒論進呈

大阪西區靭南通貳丁目電車筋南側

發賣元 森田商店

振替口座大阪貳二參二六番

（社會）

世界無比の感化院

留岡幸助

數年前の內務省の調査に依ると不良少年少女の數は五萬二千人であつたが今日では確に十萬以上に達してゐるだらう。今全國の感化院數が五十二、收容人員が一萬五千人もある其の他不良兒はすべて放し飼ひで、思へば寒心の至りである。不良少年は主として一國の首府に群居するものであるが之れは地方の少年が都會の魅力に牽引されて續々入込むにも依る。歐米各國では各停車場に矯風會なぞの會員が恰も廣告屋のやうな異樣な服裝をして張番し家出の少年や駈け落の男女を待構へてゐる、我國の基督敎女子青年會で之をやつてゐるやうだ。政府が囚人を監獄へ投じて年々六百萬圓の監獄費を遣ひ而も悪い人間を作るといふ事は決して經濟的だといふことは出來ない。そこで之を未然に防ぐ爲に內務省で一大國立感化院設立の議があるのであるが大藏省の方で許さない、茲に於て自分は今回北海道北見國上紋別郡上湧別村のサナブチの大原野中八百町歩を拂下て貰つて內五十町歩を學校農園とし他を新農村に充て百五十萬の農民を移住

せしめ十一年後には寄附金なしで立派に家庭學校を經營し得らるゝやうな計畫を立て來月十日を以て愈々出發する筈である、斯くの如き感化院は蓋し世界で嚆矢と稱すべきであらう。（報知）

京都の婦人と大阪の婦人

坂本とわ子

あるかなきかの門さして月花を樂しみに、のどやかに住み慣らした家の多いのは、京都でございます。大阪は、これと違つて堂堂と店を構へて、大勢の男女を使つて、出る人、入る人の應接に忙がしく暮してゐる家が多うございます。

京都の「お家はん」は、お琴でも彈いて、お茶の湯でも立ててをればよいのですが、大阪の「御寮人はん」は、さうはまいりません。一家の衣食のことは勿論、大勢ゐる雇人の操縦から、近所隣の交際のことまで、萬事をやつて行かなければならないのです、かやうな境遇に生れ育つ大阪の婦人が世話女房式になるのは、無理もないことでせう。

京都は、高島田に振袖の都、大阪は、銀杏返しに羽織の都とでも申しませうか。實際京都の婦人は、何處までも娘式にできてをりますが。大阪の婦人は何處までも世話女房式にできてをります。（婦人世界）

○修養

八代海相の禁酒論

此程同仁會の茶話會席上で、禁酒鼓吹の大澤、片山兩博士が大に飲酒の有害を説いて、濱尾男と議論に花を咲かせて居ると、八代海相は突然口を開いて「我輩が多年海上生活の經驗から見ると酒は明かに有害である。砲手でも舵手でも飲酒者に限つて成績が良くない、自身では確に標準を過らぬ積りで居ても何時の間にか過つて居る。だから航海中舵手には一滴の酒も飲ませぬ位だ。自分は絶對に酒を禁じた、英雄一たび事を決せんとする時は大酒を仰ぐなんどゝ言ふが、之は大なる間違ひで、豪傑は人ではなくて酒である。歐米の先進國でも鐵道のポイントメンには執務中は決して酒を飲まさぬ事となつて居る」と、實驗上から諄々と説き立てたので、兩博士は百萬の味方を得たと言つて大得意であつた相だ。（報知）

御身の友人に斯かる人は無きか

山と言へば川と言ひ、火と言へば水と云ふ風の人がある。これ等の人は、人と同情同感となるのを耐へがたき屈辱とでも信ずるのであらう。かゝる人の相手となるは聖人か然もなければ痴者でない限り、はとても堪へられるものではない。

夫に對する不平を言ふ女、妻に對する不平を言ふ男これ等は決して眞なる紳士淑女ではない。又かういふ場合に御身も一緒になつて妻や夫の惡口を言ふやうなことはしないがよい。若し然らざれば、御身は他日夫婦共同の恨みを買はねばならぬ破目に陷るであらう「これはあなたゞけに申すので、私が話したなどとは決して口外して下さるなよ」といつて、他人の秘密を發く人がある。若しかういふ人が御身の友人中にあつたならば、即座に絶交したがよい。斯かる人は、恐らく蝮よりも以上に人を毒することであらう（婦女界）

○趣味

滑稽趣味の缺乏

工學博士　塚本靖。

外國のものと比較して日本に缺乏してゐる趣味がある。それは日本人は元來快活な人種であるにも拘らず、文學にも意匠にも滑稽趣味が少い。尤も都會人は多少滑稽趣味を解してゐるが、地方人にはこれが殆ど無い。佐々醒雪氏が仙臺で川柳の話をした時、解るには解つたがなぜ面白いと言はれて閉口したといふ話がある、日本にも川柳や、一九、三馬などの戯作があつて、多少滑稽文學がないでもないが、他のものと比較して區域が狹い、對照するほどのものがない。美術工藝に至つては更に少い。西洋には滑稽趣味を現した工藝品が澤山ある。

これはどういふ點に原因するか、日本の國民性、又は國民性をつくる宗教など色々の關係があるのではなからうか。槪していふと歐米人などに比べて、日本人は氣が老けすぎてゐる、子供らしいところがない。少し年をとると眞面目くさつてしまふ。さういふことが關係をもつので、子供のお伽噺や玩具には滑稽なものがあるが、中學生あたりになると、急に趣味が一變してしまふ。

又一方には都會人が川柳などが好きで、落語といふやうなものゝ行はれたりするのに地方人には、その趣味が解らないといふのは、外界の刺激の強い處に住むものは慰藉的の趣味を必要とするからであらう。卑近な慰藉だからと言つて、一概に川柳などを排斥するのは好くないことだ。私はかういふ趣味の普及を望んでゐる。日本に滑稽趣味が行はれないのは孔孟の教や、茶道や佛教などの勸化ですべてのものを退嬰的、隱遁的の方面に向はせた結果が、元來の國民性を押へつけたものと見える。我々は本來の快活な日本人に立かへ

つて、高尚な滑稽趣味を普及させたいものである。

流行は益々下落す

下田歌子

今日の衣裳の流行を御覽なさい。西洋も日本もます〳〵華美に流れ、驕奢に走るではありませんか、高尚優美といふよりは卑俗な華美な流行に赴いてゐるではありませんか。

洋裝をみますれば、裳も袴もます〳〵細く、ますます小さく、下の方がつぼんで、歩行にも困るやうな人があります。また非常な大きな帽を被つて、さも不自由さうに歩いてゐる人があります。日本服をみれば、色の愈よけばけばしい、模樣の非常に大きいチヨツと見のよいものが多く、手にもつものでも、髮の飾りでも、何處となく華美な、浮々したものが流行します。かやうにして、流行の標準はます〳〵下落してまゐります、流行の變化はます〳〵急になつてまゐります。かゝる時、誰か「流行の弊害」といふことに思ひ至るでありませう。(婦人世界)

家庭

幸福なる家庭

三輪田女學校教頭 三輪田元道

或人は、立派な家庭を造つて愉快に暮したいが、悲しいかな物質の供給が充分でない。樂しい家庭を造る事は思ひのまゝにならぬと云ふ。最も甚だしきは、私は樂しい家庭を造りたいが、夫があんな人だから詰らぬとか、又た私は理想の家庭を造る考へだが、妻が無識無能だから困るなど〳〵、お互に困る原因を數へてゐるものもある。精神さへ愉快ならば家庭は知らず識らず愉快になつて、其の中に住んでゐるものは勇氣を以て事に當ることが出來るから、從つて段々成功もし又物質も得易くなる道理である。それ故先づ精神そのものを愉快ならしむるより外に道はない。

支那の古い書物に面白い事が書いてある。或人の細君に片目の醜くい女があつたが、夫はその細君を愛すること限りなくそれを非常に嬉しがつてゐた。そこで友人がその人に聽いて見た、君の細君はあんな不器量だが、全體何處が氣に入つたのかと云ふと、その人の答が面白い。自分の妻は完全無缺だと云つた。友人が重ねてそれでも片目ではないかと云ふと、イヤさうじやない。妻のが當り前で、世の中の女の目が一つ多いのだと云つたと書いてある。痘痕も靨と同じ道理で、片目の女でも氣に入ると、完全な女の方に却つて不用のものが附いてゐるやうに思はれたので、心の作用では何麽ものでも滿足の出來る者である。(眞人)

言語に表はるゝ小兒發達順序

ドクトル 富士川游

今ブライエル氏の實驗によつて兒童の健全に發達する順序を述べると生後一ケ月目の赤ん坊の泣聲は母音のエとウといふだけです。二ケ月目には母音のアとオ、子音のマ、カ、ラ、タの發音が明瞭になります。

三ケ月目には母音のイが加はります。

四ケ月目には他人の話が解るやうになり。自分でも無意味な言葉をいひ出します。五ケ月目には人に向つてゐる時に、よく分らない言葉で話しかけるやうになり、また他人のいふことを眞似します。六ケ月目には脣音バビブベボ、パピプペポ、マミムメモ、ワヰウヱチと、舌音サシスセソ、ザジズゼゾ、タチツテト、ダヂヅデド、ナニヌネノ、ラリルレロの諸音が明瞭になつて來ます。八ケ月目には凡ての發音ができるやうになり。九ケ月目には言葉がハツキリといへます。

談叢

活動寫眞の寛術は斯くして寫す

汦々子

待つたなして置いて吹換へを使ふといふやり方は、活動寫眞では、始終のことで、高い崖から人間が飛び降りたりするのも、矢張り此方法によるので、飛び降りやうとする瀨戸際までは本當の人間が勤めるのだがそこで機械を止めて代りに人形を落して置いてそこで又機械を止めて再び元の人間と吹換へるのである。人間が突然外の人間に變つたり、今まで居た人間がだしぬけにゐなくなつてしまつたりするのも皆な同じ理窟だ。寛術寫眞なぞも大抵はかうしてやる。

同じくトリツク寫眞の中に馬だの車だの自働車なぞが後ろの方へあべこべに走つたり。煤煙があべこべに煙突の中へ飛び込まれてしまつたり、石が上の方へ落ちたりするのがある。何でもあべこべになつて引力說なぞは破られてしまつたやうに見える。だが是れも寫眞の方では至極譯のないことで、初めに普通の動作を普通に撮影して置いて、それを幕の上に影寫する時にフイルムの最後の方から先に寫し初めると總ての動作が反對になつて現はれる。崩壞した家が獨りでに組み立つて完全な家になる寫眞なぞもかうして寫すのだ。

撮影のしてあるフイルムは六七錢位ひだが日本へ來ると運賃や關稅が掛かるので十二三錢から十五六錢の高値になる。獨逸のフイルムだけは特別に高くて二十錢位する。日本で拵へる寫眞は生フイルムが高いのと複寫をしないのとで實費一呎二十錢位かゝる。芝居の寫眞にでもなるとどうしても三十錢より安くは出來ない。(新日本)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY